

MEMEの

よろず
ウォッチング



第一弾の【MEMEのTOKYO車中ウォッチング】に続き
第二弾の【MEMEの よろずウォッチング】を発行します。
巷の小さなお話を拾って書き残していきたいと思います。

作者
MEME

第二弾！「よろずウォッチング」発行について



第一弾の【**TOKYO 車中ウォッチング**】に続き、
第二弾【**よろず ウォッチング**】を発行することにしました。

身近で見つけた、面白い・笑える・寂しい・悲しい・うれしい・そんな出来事を書いて
行きたいと思っています。

年齢とともに遠方への移動行為が少なくなって、【車中ウォッチング】もあまり出来な
くなってきた昨今、今度は、巷でよろずの出来事の中から面白い楽しいお話が書けたら
うれしいです。

出来ることなら、楽しい出来事がいっぱい埋まることを願って・・・。

若い頃のエピソードも載せていますが、実はわたくし、只今おん歳80になるおばあさ
んです。

甥の結婚式での出来事！

甥の結婚式に出席することになった。

東京～京都～東京・・・の日帰り日程。

その日やかした、シツチャカメツチャかな出来事を書いてみよう。

上手くいかない日というのは誰にも存在すると思うが、今思いだしても冷や汗のあの日は忘れられない・・・。(恥)

★ ヘア編

- 京都ハプニングの第一が、この「ヘア」！！

出発の前々日にパーマを、前日にヘアダイを・・・、と無理無理をして痛めつけた私の髪の毛は、当日朝、ホットカーラーで綺麗に巻いたつもりなのに、全然いうことを聞いてくれない・・・。

ほおらぁ～～！と自分を責めながらも、出発の時間が迫ってくるので、最後の手段！「ジェル」で固めたら、わ！ 只でさえ薄く弱弱しい髪の毛が結束して、地肌がここに見え隠れ・・・。(＞_＜)

そこを力づくでブラッシングしながらヘアスプレーで固めまくって、さて出発。

京都までは新幹線の快適な空調で心地よく、ヘアも何とかなだめすかした甲斐あって平安平安。

- ところが！ ！

京都駅から「[新都ホテル](#)」までのほんの数分間の炎天下の歩行で、汗！汗！汗！

気が付けば、あんなに固めまくった筈の髪の毛が、汗の水分でくちよくちよに・・・！
が～～ん！

パーマの掛けたては、伸ばさないと変に細かいウェーブになってしまうが、まさにそれ！

一番恐れていたことが現実に・・・。

お化粧直しは後でも修正出来るが、髪だけは「一巻の終わり」・・・。(一一；)

そこで考えた。

いいのさ、いいのさ、わたしゃこれからお嫁に行く訳じゃなし、誰も見てないって・・・！

★ 靴編

- 厳かにお式も進み、美しい花嫁さんと花婿さんの誓いの言葉、にっこり微笑んでお互いの指輪の交換、フラワーシャワー・・・と、花に囲まれた夢のようなチャペルでのお式も終わり、三々五々、ロビーでグラスを傾けながら披露宴が始まるまでの時間を過ごした。

水分を含んでちりちりになった髪の毛も何のその、厳かに、余裕の笑顔で「叔母様」風を気取ってふんわりソファーに深々と座って可愛いゲスト達の華やぎを眺めていた。

さて、そろそろ・・・かな？

ちょっと化粧室で身繕いをし、会場へと向かったその時！！！！！！！！！！

何か変！

右足が何か変！！

ばらばらん！・・・と、変な重さと歩き難さ・・・！

えっ・・・？と足を上げてみると、何と！ つま先がぱっくり剥がれているではありませんかああ！

この場に及んで、何たる事！！

- 実は、こういう経験は初めてではない・・・。

1年前、新橋で同じような苦境に立ったことがあったのだ。

友人のご主人のリサイタルを終え、内幸町ホールから打ち上げ会場に移る時に、突然の「パカリ」・・・。

足を引きずりながらも何とか会場にたどり着き、気を利かせた友人が「輪ゴム」を借りてきてくれた。

それを靴の前部分に巻き、帰宅までは事なきを得たものだった。

- そんな経験から、「輪ゴム」さえあれば何とか凌げる！！と、傍にいた義妹に頼み、フロントから借りて来て貰った。

ところがどっこい！！ 二・三步歩くと、折角嵌めた輪ゴムが「びるるるん！」とどこかに飛んでいってしまうのだ！（一一；）

その度に、心配して傍に居てくれる義妹たちが一斉に「ふかふか」の絨毯を嘗め回すように探してくれて・・・。

「あった！」

くるくるに丸まった輪ゴムの束が、思いも寄らない遠距離飛行！で、彼方の絨毯にめり込んでいる・・・。

もう、恥ずかしさを通り越して、込み上げて来る笑いをコラエル方が大変。

三々五々、美しいドレスを身に纏ったお嬢さん達が、「ん？ なに？」という怪訝顔で通り過ぎていく。

「嵌める」歩く・・・「びるるるん！」を何回か繰り返した後、決心した。

この方法では絶対まずい。

新橋の時は[アスファルト](#)の固い地面だったが、今回は、こともあろうに「ふっかふか」の絨毯！！

一步毎に絨毯の毛足とゴムが絡まって「びるるるん！」の大飛行！！

参った！

丁度履いていた靴の甲が編み上げになっていることを思いついた。

それをほどこう・・・。（一一;）

そして、その紐でガンジガラメに縛ってしまおう！！

靴のデザインが左右違ってしまっても、この際しゃ～ないわい！！（一一;）

- さて、右足だけ「笹団子」のように紐で縛り上げ、何事も無かったような涼しい顔をして、オモムロニ会場に向かった。

幸い、洋服がセミロングなので、何とかごまかせるだろう・・・。

いくら空調が万全とは言え、一連の重労働（笹団子作成に、うつむいてお腹を圧迫）で、又もや汗が吹き出、またまた例の髪が縮れ上がり・・・。もう、この世のものとは思えない風情・・・。

（一一;）

- やっとたどり着いた「親戚一同」の席。

座ってしまえばこっちのもんさ！（^_-）☆

何が起ころうとも座ったまま・・・。

ふと見ると、あんなにガンジガラメに縛った靴紐が、やっぱりほろろと解けている。

靴って、こんなに縛り辛いものなのね・・・。

そこで、何気ない振りをしながら、紐と輪ゴムの複合でやっつけて、さあこれで大丈夫だろう・・・。

- 披露宴もますます盛り上がり、美しい花嫁さんと、立派に成長した甥と、あちらのご両親、息子の晴れ姿を見つめる義妹・・・、ジーンとくる素敵な時間が経過し、宴も賑やかに終わった。
- さて、ゲストの方々も会場から去り始めたことだし、そろそろ私達も親戚の方々にご挨拶をしてから帰ろう・・・と立ち上がり、満面の微笑みで淑やかに歩み寄った！！ 「この度は、素晴らしいお二人で・・・あ・・・」

そこで気が付いた！！思い出した！！ 輪ゴムが「びゅゅん！」

とりあえずその微笑だけは続け、何とかご挨拶は終わったが、その場から歩けない・・・！(>_<)

周りにいた義妹達、必死で笑いを噛み潰しながら「びゅゅん」の先のゴム探して腰をかがめて絨毯上を徘徊。

私ももう、微笑み・・・などという言葉が当てはまらない顔面・・・、そう、「破顔」・・・。破け弾けた！

「ぐぐぐぐふっ」 事情を知らないご親戚の方々の不思議そうな怪訝顔が見えるのに、動けない、笑いが止まらない！ もう、涙を流しながら女三人が笑いこけている図は、何だろう・・・！

「ごめんなさいね、お姉さん、ぐぐぐ、私が笑っちゃいけないのに・・・、ぐぐふふ」涙を流しながら謝る義妹。

しかも・・・！ お式の途中で抜け出してお手洗いに行くことも出来なかった私には、そちらの方もはや「限界」！！！！ う・動けない・・・。

早くその場を立ち去りたいのに・・・、忌まわしい「右足」！！

一足ごとに、踵付近までの靴底が盛大に垂れ下がってくれる！！！！

靴の裏って、こんなに長いんだあ・・・と妙に感心する。

いやあ・・・、変な一族。と思われているだろうなあ・・・。

事情を説明することも出来ずに涙顔でトイレ我慢の身もだえしながらジリジリとその場を離れようとするお嬢さんの親族・・・。

本当にすみません・・・。（今思いだしても赤顔）

失礼にも涙だらけで笑いコケテ、ご挨拶もそこそこに、すり足歩行でやっとのことでその場を離れたことだった。

- もう、輪ゴムの「びゅゆん」は諦めて、すり足歩行で新郎控え室まで行く事にし、ゆっくりゆっくり、一足ごとに「びろろん」（微妙な言い方の違いに注目！）と垂れ下げながら歩いていると、素早くホテルの女性が声を掛けてくれた。

「どうかなさいましたか？」

地獄に仏、「このホテルにお靴を売っているところは有りませんか？・・・、これこれしかじか・・・」というと、ホテルの近くに「[伊勢丹](#)」がありますので、帰りに立ち寄っていらしたらいいと思いますよ」とのこと。

それまでの応急処置として、「両面テープ」で貼りましょう・・・と、ご親切にも早速修理して下さいました。

感謝感激！！

しっかりと何枚か貼り付けて、「さ、体重で押して下さい」と靴を返してくれる。

重さなら任して下さい！！

ぎゅっぎゅっ！と体重で貼り付けて、まあ、お見事に元通り！！

早く「両面テープ」の存在に気が付けば良かった！！ (>_<)

- かくして、涙の「靴騒動」は一応の幕となったのだった。
- ホテルの方曰く、「こういう事は、しょっちゅうあるんですよ。久しぶりに履く靴がなりやすいんです。結婚式などで晴れのお靴を・・・と仕舞ってあったのを履く方が多いので・・・」ですって！
- 何を隠そう、私のこの靴も、10年以上前にイタリア・フランスに行った折に買ったしろもの。

なんでそんな古い靴を・・・？とお思いの方、私の「馬鹿足」の嘆きを聞いてくださりませ！！！！

1.まず、サイズが25！！ 昔は24だったのに、太ったら1cmプラスになっちゃった・・・。

2.[外反母趾](#)で、すぐ痛くなる。

3.幅広・・・、[外反母趾](#)プラス幅広・・・ときちゃあ、入る靴は無いぞ！

4.体重の関係（言いたかないけど）で、踵が細いと不安、かといって、かばかば鈍い音がしそうなババ靴は嫌。

そんなこんなで、私が履ける洒落た靴など、絶対に見つからないのだ。

そこで・・・、今回も10年前のフランス製の靴の出番・・・！

外国は、不思議と大きなサイズが見つかり、他にも一足イタリアで買ったのを大事に履き続けている。

それが・・・、この事件の元だったと知り、我が「馬鹿足」を呪ったことだった。

(一一;)

何処がおかしくないですか・・・？



上の絵・・・、何かおかしくありませんか・・・？

・・・、

そう・・・。

お帽子を前・後ろに被って居ますよね・・・？

病院の待合室で、じっと待つご婦人。

全然違和感なくお洒落にチンと座っていらっしゃるから、もしかして私が「既成概念」で「オカシイ」と感じるのかな・・・？と思っても見る。

いやいやいや・・・、帽子に付いている「リボン」が、普通は左・・・。
彼女の「リボン」は右・・・。

やっぱり前後ろの被り方を間違っ居るよね・・・。

あんまり自信満々に居られると、こちらが間違っているのかも・・・と思ってしまう。

あ・・・、でも、「リボンは左」と思いこんでいるけれど、もしかして「右」に付いているのも「あり」なのかも・・・？

いやいやいや・・・。(*´艸`)

-

MEMEは、自慢じゃないがこれでも若い時は一応人間風だった。
いまでこそ「ぶ〇」の様だが、どうして・どうして、ちゃんと女性だった。
その頃の、杉並区のとある社宅で棲息していたころの話し。

昼下がりのアンニュイなひとときを過ごしていると、「ピンポン！」とチャイム。
「は〜い」取りあえず髪など撫で付けながら玄関へ・・・。

新聞販売員の方が立っている。

目をきょとんとして言った。

「あれ、ここにいた前の人、転勤したんですか？」。

「????」

「3ヶ月前に来た時は、わか〜い（!）素敵な奥さんがいたんですが・・・」

「はあ〜!？」

「転勤ですか・・・」

「・・・。あの、・・・前からここにいましたけど・・・私」。

「いや、もっとわか〜い（!）奥さんでした!」

分かった!

今日はお化粧してない!

「もっとわか〜い奥さんだった!」と主張する新聞やさんに、
早々に断りを入れて引き下がってもらったのは言うまでもない。

前の「わか〜い奥さん」は、転勤したのです!

そうそう!そういうことにしましょ!

一人になって、鏡の前。

うん〜ん!。

納得、納得。

「転勤したわか〜い奥さん」を呼び戻しましょ！

時々このシーンを思い出しては、自戒としていたのに、最近の私のおばあさん振りにはびっくりする。

お出かけ時は「別人28号！」

これじゃ〜、・・・ね！

牛若丸！

MEMEではなく、めめちゃんのお話。

おかめいんこのめめちゃんは、名前に似合わず、男の子。

真っ黒おめめに、頭の上にちょんちょりんがついていて剽軽な子。

ほっぺがオレンジ色なので、いつも笑っているみたい。

朝目が覚めたとたんに「おはよう！」と大きな声！

出入り自由にしてあるドアからすぐに飛んできて、いつも左肩に止まって何処へ行くのも一緒。

だから、お互い一体感があって、「個室」に入るのも当然一緒。

ちなみに、ある方がベンベルグのつるりとしたブラウスの肩に載せたまま個室に入り、うっかり滑り落ちた鳥ちゃんを流してしまった話を聞いているので、常にご用心！ご用心！ うう・・・、ぞっ！

庭でゴールデンの「レト」ちゃんがうるさくわんわん鳴くと、すかさず「レトちゃん！」と叱責の言葉。（笑）

私達はまるで二人で（？）一人のよう。

私が電話中は、自分も参加するものと決めていて、送信口に嘴をつけて、「ごしょごしょぐにゆぐにゆ」おしゃべりをするものだから、

「・・・・。今のなに??」

初めての方は、突然変なノイズが入るので、びっくりする。

訳知りの方は、「そうかいそうかい、めめちゃんげんき？」などと電話口で話しかけてくれる。

いつもはカーテンレールに止まって口笛を気持ち良さそうに吹いている。

レパートリーは、5つほど。

竹内まりあさんの歌が多い。

5歳になるけれど、今でも新しい歌を覚えてくれる。

今は「出た出た月が」を学習中。

面白いのは、鳥でも「5・7・5」の調子が覚え易いらしく、ぴーよこぴーよこたん！と調子の良いこと！

おしゃべりより、口笛の方が上手。

面白いのは、こちらが一節吹くと、次のメロディを歌う事。

オウム返しという言葉があるが、めめちゃんは、ちゃんと次から歌う。

うちの子は天才！と、ひとりごちている。

ひっくり返って新聞をよんでいる時は、いっしょに私の額の上に座り込んで・・・。

そこで悲劇（？）が起きたのです～！

ある日、床暖でねころんで新聞を読んで居るうちに、つい、うとうと・・・。

と・・・、「ピンポン！」と 宅急便。

あわてて飛び起き、「あ、はいはいは～い！」などと時間を稼ぎながら玄関へ。

宅急便のおにいさんが判子を押しながら、見てはいけないものを見るような妙な目線をして上目使いでちらちら顔を見る・・・。

あれ、ねぼけた顔を見破られたか！？

それとも、涎？・・・

「どうもありがとうございました～！」とドアを閉めたとたん、鏡の前へ。

・・・・・・・・・・。

どういうことが起きていたと思いますう～？！

額にふたつ、めめのウンチ！

それも、床暖に寝そべっていたので、即乾！

こびこびに貼りついた場所がいけない。

まるで「牛若丸っう～！！」「お公家様～！」「麿」？

めめのウンチで、もうひとつ困ったこと。

私のいる場所の周辺でうろうろしているので、ウンチがあちこち。

しかも、今、床暖房なので、すぐこびこびになる。

それと、PCの廻りの紙という紙を退屈しのぎに「ぺちぺち」改札切符のように（古い！）穴を空けまくるので、私のPC使用時間がばっちり分かるのだ！

主人が帰ってきて、「お、今日は随分お励みだったようですね！」などとばればれ。

はっと気付けば私の廻りは紙ふぶき。

ちょっとはなれていてよ～！めめちゃん。

息子一家と温泉旅行をしました。

孫たちは大喜び！プールではしゃいだり、おいしいものをお腹一杯食べて、さあ、温泉に入りましょう！

実は、MEMEは、あまりの「育ち過ぎ」のお腹を、誰にも見せずにあの世に行きたいものと願って頑張ってきたのですが、

「おばあちゃんも一緒に入ろう！ねえ～、はいろうよう～」と手を引かれて考えました。

「今この、**キューピー腹**の姿を見せておけば、いつか<介護>などという厄介な事がおきても、免疫ができているから、ショックが少なくて済むかも。

「いや、あまりといえはあまりのこの姿・・・。

これをみせちゃ～、おばあちゃんのコケンにかかわる・・・！」

手を引かれている短い瞬間の決断！！

よ～し、一緒に入ろう！

**どうせなら、彼女が小さいうちに<なにげなく><さりげなく>
<気にしてないよ～ん！>て顔で入ろう！**

温泉に着きました。

脱ぎ始めました。うう・・・

4歳の孫娘も脱ぎ始めました。

視線も普通です！お腹を見ても「わおお～～」と叫びませんでした！

成功成功！。

タオルで隠しながら、隠しながら、何とか「お湯の中の人」に・・・。

後はもう、平気！平気！

ちっとも「奇異」の視線をむけなかったぞお！しめしめ。
自分が気にし過ぎていたんだ！
なあ～んだ、なあ～んだ。

無事に「ぽんぽこりん」のご披露を終わって、ルンルン。

お部屋に帰って、さ～てなにをする？
「お絵かき！」と孫娘。

ここで悲劇が起きました！

「上手ね～、〇〇ちゃん」
皆の注目の中、彼女が次に書いたのが「W」の字。
「???' 「・・・」

「これ、おばあちゃんの おっばいい～！」

W の下のとんがりに、点を二つつけて叫びました！

ずこ！

これぞまさしく「W の悲劇～～～！」

（断っておきますが、湯船の中だから浮力でこうなるんです！）なんて！
言えば言うほど「み・じ・め」

ああ・・・。

近々息子一家とスキーに行こうかという計画が・・・。
それには色々細々としたものも買いたいし。
ということで、近くに開店した大型アウトレット店に
見に行く事になりました。

「わ～っっすご～い！なに！この広さ！」などと、度肝を抜かれながら
奥へ・・・。

と、目に飛び込んできたのが「1,980円」の数字。
なんと、あったかそうなスキーウェアの上着・・・。

「嘘みたいなお値段！」
でも、よ～くみると、全部派手派手なもののような気がするのが気がかり。
それにしても、「1,980円！」
「ねえねえ、私がこんな色着たら、恥ずかしいかしら？」
念の為いってみる。

「あ、いいかも！。ゲレンデで迷子になっても、すぐ分かるよ」と息子。

「そうそう、お年寄りも綺麗な色を着たほうが素敵ですよ」とママ（息子の
連れ合い。今後彼女の事はこう呼びます）。
そっと手にとって良く確認して見る。

ショッキングピンクに、黒のリボンが縫い付けてあるウェアは、息子達が
恥ずかしくないのなら、挑戦して着てみようかな？という気になってきた。

「サイズ、サイズ。あ、＜0＞ってな～に？」
「＜0＞って、LLサイズと同じですよ。」
「あらあ～。それじゃ、私でもダイジョウブネ！」
「ちょっと着てみたら？」
「よお～し！！」
早速袖を通してみました。

おっ！入った入った！ あらら！、素敵ジャン！
ウェストがゴムで絞ってあるデザインなのに、初めて気がつきました。

でも、でも、入ったし、若若しい色だし、ゲレンデでうろうろ歩き
廻る（滑れない！）のに、凄く素敵！
なにしろ、「1,980円」！

「あ、これ、正直だと 30,000円の値札がついていますよ！」とママ。
おお、何と言うお買い得！
もう、私の目は血走ってきました。

今のうちに買っておこうと、レジに持って行こうとしたら、
「後にしたら？こんなド派手な迷子用のウェア、**今シーズンが終わる頃まで
売りきれないよ！」とあきれ顔の息子。**

何てことをいうの！さっきの言葉と違うじゃない！？
軽く睨み付けながらも、心はうきうき！
「もう一度着てみる！」

と、・・・。
何だかスナップが余計有り余っているのに気が付きました。
ん？

お腹のあたりを掻き分け掻き分け、よくよく見てみたら、な、なんと、
このデザインは、「ダブル」なのでした！！
ダブルをシングルにして着ていたのです！！

むむ！

幸い私には、「洋裁」の腕が！
ウェストのゴムを取り外せばちゃんと着られますわイ！

「30,000円が1,980円」！
普段着たことがないショッキングピンク！

誰になんと言われようと、さっさとレジに向かったのはいうまでもありません。

それを公の場（ゲレンデ）で着たかどうかは、ここでは言えません・・・！

昨日は朝から頭痛に悩まされた。

でも、今日は大丈夫！

どんよりと昨日のぐつつき模様を引きずっていたお天気も、

先ほどから陽も差してきたような・・・。

朝から溜まったお洗濯物を干し終えて、さあ、今日は昨日の分も

取り戻すぞ！

頭痛中は「何で私は頭痛持ちなんだろう！なんて不幸なお・ん・な！」

などと、かこちながら、うだうだと気だけ昂ぶった一日を過ごしたが、

【「普通」のうれしさを実感出きる今日の為に昨日があったのだわ！】と
妙に感動！

何でもそう考えると、「必要無いもの、必要無い経験、必要ないことども」って、そうあるものではないと、この頃つくづく思う。

苦しい事をクリアした後には、必ず何か「得る」ものがあることに気づく。

振り返って見た時、「あ、あの時のことは、今日のこの事につながっているんだあ〜！」という事を、何度も経験した。

あのことが無かったら、いまの心の「心の落ち着き先」を見つけられなかったかもしれないな！と。

例えばわたくしめの容姿・・・。

若い時には、人並みに美しい顔に憧れて、「どうせ私なんか・・・」とひねくれる寸前だった。

★ 小さくて細い目！

★ 大きくて厚い鼻！

★ 大きくて厚い口！

★ アゴに「庶民」を象徴するような張り！

どれをとっても全部「反対」にすると「美人顔」。

「小さい」を「大きい」、「大きい」を「小さい」にしてみると、
見事麗人に・・・。

でも、人並みに家庭も築き、愛する家族に囲まれ、毎日感謝で過ごせるのも、「人は人、私は私」として、比較をやめたところに心の幸せが訪れたのではないかと思う。

こんなに、全てに＜麗人＞の反対の容姿を所持する私でも、そのことに恥もせず風を切って生きてきて、こうして愛してくれる「奇特」な主人がちゃあ〜んとこの世に存在してくれたうれしさ。

ものは考えよう！

★「小さい目！」は、ごみが入らないように特別神様がお取り計らってください
った・・・。

★「大きな厚い鼻！」は、空気を一杯授けてくださる為に。（でも、「厚く」なくてもよいのでは・・・。神様！）

★「大きな厚い口！」は、おいしいものを一杯頂けるように！・・・（厚さはなんで？）

★「張ったあご！」は、固いものでもなんでも噛めるように・・・。

ね！

こんな風に考えれば、大丈夫！

心ですよ！こころ！

いまさらお嫁に行く訳じゃなし、（あなた、幾つだと思っているの？・・・

はい、62歳）

残念ながら「人としての幸せ」は、容貌には関係ないのだと知ったのは、大分後になってからだった・・・。

「比較」することを止めた時、心の幸せがやってくる・・・。

美人だったら、もっと素敵な彼と出会えたかも・・・！などとは決して考えない。（ん？）

なあんて大きな事を言っている裏で、「気象庁」を恨んでいる私。

なんでって？。

「昨日のお天気、外れたじゃない！
＜気圧の谷が通過する＞事を予知してなかったから、私頭痛の原因が
分らなかったじゃない！」

気圧に弱い私でした。

逆恨みをする私でした！

芽が枯れる

二階に住む孫たち二人が一階の我が家に「お泊まり保育（!）」。

たった一階下なのに、週末になるとママパパの許可を貰って

嬉々として我が一階へ。

やっぱり気分が変わって楽しいのだろう。

リビングに簡易ベッドを二つ用意しておいて、ボタン、ボタンとセットして一丁出来上がり。

そこでテレビを見たりゲームをしたりしりとりをしたり、本当に楽しそう。

思わず夜更かししても明日は日曜。お寝坊しても大丈夫。

昨日も例によってお泊まり。

今朝の食事はサンドウィッチと紅茶と牛乳。

朝の光さんさんと入るリビングで、こうして孫と食事をしている

おばあちゃんはし・あ・わ・せ！

・・・と・・・、孫娘はぴが言った。

「おばあちゃんのめがかれてるんだよね！」

「ん？・・・」

「だからさあ～。おばあちゃんのめ！

かれているんだよね！」

「目が枯れている？・・・」

「この前言ったじゃない！おばあちゃんの<つぶつぶ>、
枯れたから出来たんだって！」

ああ～！、思い出した！

彼女が言う、<つぶつぶ>。

<つぶつぶ>じゃないところが大事。

つまり、顔の「しみ（!）」の事。

前にお泊りした時、しみじみ顔を覗きこんで言ったものだ。

「おばあちゃんの顔の<つぶつぶ>はなあ〜に？」

つまり、顔の年輪、「しみ」のことを知っていることに気が付いた。

ママやパパや、おにいちゃんには無いものを発見して
不思議に思ったのだろう。

ぎょっとしながらも、おもむろに話し出した。

「これはね〜、はぴちゃん、
年をとると、みんな出来るのよ。ほら、葉っぱが枯れる時は
最初に少し茶色のぼちぼちが出来て、それがどんどん広がって、
ぜ〜んぶ茶色くなって枯れて落ちていくでしょう？。
それとおんなじで、おばあちゃんも年をとったから、
少し茶色いつつぶつぶが出来てきたのよ。」

はぴ、「ふ〜ん！、じゃ、おばあちゃん、もうすぐ死ぬんだ！」

ま、待ってよ。そこまで先走られるとおばあちゃん、ぎゃふん！
それも、凄い事を発見したように、得意げに声タカラかに
いわれてみると、何やら悲しい。

そこで、最初から説明しだした。

「樹って、最初、若い芽（！）がでてくるでしょ。そして二つの若葉が
出来て、つやつや綺麗に輝いているよね！

それから、丈夫な葉っぱが出てきて、どんどん成長して
いくでしょ。

そのころがはぴちゃんとか、おにいちゃんの年の葉っぱなの。

きれいで、力強くて、みずみずしくて、・・・。

そして、大人の葉っぱになると、濃いいろの
硬い立派な葉になり、

堂々と陽を浴びて広がっているよね。

その頃がパパとママの葉っぱ。

でも、冬が近付いてくると、少しづつ茶色の

つぶつぶが出来て、そして、全部茶色になって
枯れてしまうのね・・・。

「葉っぱのフレディ」の本さながらの話をした・・・。

つもりだったのだが、4歳のはびには、

「芽」「つぶつぶ」「死んじゃう」がインプットされてしまったらしい。

「目」は「芽」だった！

「芽が枯れている・・・」

明るい朝の陽の光の中で、彼女の目の中

には、まさに

「芽が枯れる」おばあちゃんが存在したのだろう。

光って、きれい！

自分の孫に言いたいことを・・・

この季節、受験で日夜頑張っている学生たちの姿や、それを見守る家族の方々の気使いがそこここに・・・。

我が家も無事済んでほっとした時間を取り戻したところ。
そんな時、いつも思い出す車中の風景がある。

3年ほど前のこの季節。

バリッと真新しい制服姿の初々しい高校生が隣に座り、慣れない電車通学に緊張した面持ち。

いいなあ！いいなあ！こんな紅顔の少年時代は長くは続かないのだから、精一杯三年間の高校生活を楽しんでね。

どんなお友達が出来るかなあ・・・。可愛いこちゃんとの素敵な出会いもきっとあるよ！ご家族もさぞお喜びのことでしょう！ほんと！良かったね！

きらきらしたほっぺに、まだ中学生の面影を残している少年を眩しく見ていた。

その隣の60がらみの太ったおばさんも、ちろりちろりとその新高校生を見ている。

そして、ついに話かけた。

「あんた、勉強しなかったんでしょ。だからこんなところしか受からなかったんだよね」

な・何を言い出すの？

私はびっくりして飛び上がりそうになった！

はっとした少年は自分に話かけたのだと知り、顔を紅潮させて下を向く・・・。

なおもおばさんの毒舌が続く。

「あんた、人生頑張らなきゃいけないこともあるんだよお！これから生きていくのに、努力することも大事！それを怠っていたからこんな制服を着るはめになるんだから！」

人生訓をとうとうと垂れるおばさんと、首をうな垂れ、真っ赤になっている少年・・・。

もう、いたたまれない雰囲気になった時、最後にこう付け加えた！

「ごめんよ、実はおばさんの孫もこの高校にいるんだよ・・・。だからついつい悪いことを言ってしまったね。本当は自分の孫に言いたいことをあんたに言っちゃってさ。」

もう！

ふう~~~~！！！！

今日は油絵教室の日。

いつもなら某公営局の「朝のテレビドラマ」を見終わるとそそくさと電車に乗って教室に出かけるのに、今日の私は、なんか不調・・・。

「昨日抜いた歯があ・・・。歯医者にもいかなきゃなんないし・・・。」

ドレスも作らなくちゃな～！（一日伸ばしで切羽詰まるのはいつものこと）

雨模様なんだよな～、キャンバスがぬれちゃう・・・。

なんだかんだ理由を付けて、今日は「絵画教室」はお休みすることに。

そこで、だらだらとテレビを見ていたら、有名女性歌手と若いダンサー元夫妻の離婚の慰謝料の話題で盛りあがっていた。

「無名のダンサーをここまで芸能界で育てたのだから、離婚するなら慰謝料を一億およこし！」と40台の歌手。

ダンサーの方は、うちの次男と同じ年。

33歳で い・ち・お・く ！の慰謝料！

子供が欲しいと言っても「あなたの収入で暮らせないでしよう？」と、にべも無く却下され続け、女性はどんどん「不可能な年齢」に近づき・・・。

男性は23歳で結婚しちゃったんだもの、大変だったよな～。

10年間もよく夫婦生活が続いたもんだよな～・・・。

二人が、3年位前に公営テレビに出ていたとき、隣に座った彼に、何度も「誰のお陰でここまで来れたと思うの？」と夫であるダンサーに言っていたのを思い出す。

「●●さんのお陰です！」と、その度に苦笑いしながら頭を下げていた夫。

あ、彼女は、もう駄目になりそうな予感がして強がっているな！
と直感した私。

そんなことはどうでも良いのだけれど、その討論会（？）に出席していた、さる弁護士＝（元検事）の美しい女性が、アップになる度に、頭のとっぺんの巻き目のあたりに白い毛が一本、ライトに当たってピカリと光るのが気になる。

気になりだすと、UPになる場面には、その「白毛」を見つけようと身を乗り出して探してしまう私。（変なの！）

そこで気が付いた。

なんで「白毛」ってピンと立ちあがるのだろう？

加齢のあかしなので、もう少し遠慮してくれたら良いのに・・・。

何故か「白毛」のくせに、力強くて、張りがあって、逞しくて、元気良く ピン！と自己主張をしている。

思えば、私が20歳位の頃は、「60歳」年齢なんておばあちゃんもおばあちゃん、老い先短い人の様に思っていた。

昔、父母の「還暦祝い」の場面でも、「ああ、もう一緒にいられるのもいくばくか・・・」などと、密かに涙したりしていたのに、何たること！あれからもう、30年！

母は今も元気に過ごしているし（その後100歳で没）、70歳から描き始めた油絵をHPにした「**けいの部屋**」も発表。

（ちなみに父は77歳まで現役で急逝した）

若い時、「オバタリアン」（こんな言葉も無かった時代だが・・・）にだけはなりたくない！と、心にしっかりと誓った私。

でも、自分がこの年（62歳）になって分かった事。それは、

「白毛」と同じく、疎まれながらも逞しく、疎外されながらもどっかと根を据えて、「抜かれるもんか！！」と頑張っている姿！

そう、白毛にも意地があるのだ！

そうだ！そうだ！

うなだれてなんてられないぞお～～！ おおお～！

額の白毛を染めるのにおおわらわの私の雄（？）たけびでした。

ビデオを後でじっくり見た弁護士（元検事）さん、多分お気が付くでしょうが、あの白毛を抜かないでくださいね！

私は弁解が下手だ。

何回か、結果が意図したことと反対になってしまうことを経験した。

やっとのことでキッカケを作り、やっとのことで切り出した言葉、「あの時、ごめんなさいねえ・・・。何だかとっても変な事を言ってしまっただけ・・・」

「え？、そんな変な事をおっしゃったあ？ なんだったっけ・・・。」

「あ、それならいいの。忘れて下さってるなら。 ああ良かった！私ずっといつか謝ろうと思っていたのに機会が掴めなくて・・・」

「な～に？ 変な事って。イヤダア、気になるなあ・・・。ねえねえ、なあに～？」

「いいんだってば、覚えていらっしゃらないんなら」

「やだやだ、教えて！言い出したんだから最後まで言ってよお！」

「あの〇〇の時、うっかり〇〇って言ってしまっただけ・・・。誤解されたんじゃないかと後で大反省していたの。本当は〇〇だっただけなのに・・・」

・・・・・・・・・・・・・・・・

「・・・・・・・・ 聞かなきゃ良かったわ！ 全然覚えていないなかったのに・・・・・・・・」



こんな展開になり、ますます自己嫌悪に陥ったこと数回。

ほんとに私って馬鹿馬鹿馬鹿。（ばしばしばし！）

「終わった時間は取り返せない」と心に言い聞かせ、慎重に言葉を選んで話をしたり、行動したりしよう。

・・・と最近とみに決心をしているつもりだったのだが・・・。

やはりあちこちでダストを散らしているのだろうか・・・。

おばあちゃん・・・

用あって、久しぶりにベイホテルでの或る会合に出かける。

シャンプー・・・よし！ お化粧・・・よし！ ちょっと華やかな服・・・よし！
何時になく朝から華やいだ昂揚した気分です準備万端怠り無く・・・。

電車が少し混んでいる。

ディズニーランドに行く人達が、楽しげにさざめきあっている。

若いって良いな～。

顔も、太ももも、ぷちぷちしている。

高校生かな？。

薄化粧にピアス。

今時の高校生って、お化粧もしているんだ・・・。

座っている私の前で、ぺちやくちゃおしゃべりで楽しそう。

あ、私の**両端の席**が空いた・・・。

友達同士と一緒に座れるように、私は席をひとつ移る。

「ああ、良いことをしたわ！、なんて気が利くんでしょう！私って！」

「どうぞ！」

にこやかに、おごそかに、親切心を湛えた目線で言う私。

と・・・。

「**ありがとう、おばあちゃん！**」

「うぬぬ！・・・」。

・・・・・・・・

「おばあちゃん！・・・」

まだまだ若いとうぬぼれていたが、やっぱり・・・。

それにしても・・・。それにしても・・・。

うっうっうっ！！

うらめしい視線をおずおずと隣のお譲さんになげかけた。

でも、お隣さん、「そいでさあ〜」「いくらだったあ〜??」と
さっきの話の続き・・・。

めげているのを周囲に悟られないように、「えほん！」と咳払いをして
気持ちを整える私。

孫が「おばあちゃん〜」と話しかけると、「な〜にい〜」などと
にやけているのに、「他人のあんたのおばあちゃんじゃない！」と
鼻息荒く考える事でもないか・・・。

でも・でも・でも・・・。

70歳の知人がこぼしていたセリフを思い出した。

「電車の中で、おばあさん！てよびかけられたのよお〜！」

悔しそうに言っていたのは、もう、何年前か。

その時は「だって〜。じゃ〜、なんていえばいいの？やっぱりおばあさんじゃ
ない?・・・」などと、つれない心の中。

年を重ねないと分からない事ってほんとに多い。

でも私、その方と同じ70歳まで、8年もあるも〜ん！

(おんなじようなもんか・・・。)

あ〜あ、席を変えてあげるんじゃなかった・・・！

ある超有名コーラスグループの「結成〇〇年記念コンサート」に友人たちとNHKに出かけた時のこと。

4人編成のコーラスグループの「バス」を受け持っている〇氏の奥方が高校時代の同級生・・・という縁で、皆でお祝い方々応援にいったのです。

NHKホールでの「〇〇年記念特別リサイタル」ともなると、皆それなりに気を使ってドレスアップで集合。

特別席を取って貰ったことも有り、少し緊張しながら席に着く・・・。

と！

私の隣りの友人と全く同じ洋服を着た方が前の列の斜め前に・・・。

ぎゃ！

大のおしゃれさんである友人は、この日の為に探し回って手にしたスーツだそうで、みんなで「素敵ねえ〜」「お似合いよお」などと言い合った直後のこのアクシデントに、周囲の友人達も言葉を失った・・・。

コンサート終了後、一同で銀座での「貸し切りレストランパーティ」へと流れる。

ああ、やっと息詰まる「攻防戦(?)」から開放された・・・と安堵しながら駅へ向かう・・・なんと！その先に例の洋服（を着ている人）が！

切符売り場にいるではありませんか！

又もや皆は固まってしまいました。

でも、それは見なかったことにしてそそくさと電車の中へ・・・。

これで気を使わなくて済む・・・やれやれ・・・。ふう〜！

・・・・・・・・・・と！

くだんの洋服が、私達が入る予定の「貸し切りレストラン」に先に入って行くではありませんか・・・。

え〜〜〜！！？？？

しかも、グループごとに丸テーブルに設えられたお席がまた隣り！！

所狭しと並べられた沢山の祝賀席の、選りもよっての隣のテーブル・・・！

・・・・・・・・

誰も、一言もその件については黙したまま、パーティーは終わったのでした。

一番困ったのが、くだんの相手とこちらの体系の決定的な違い。

アチラ様が「S」ならこちらが「LL」。

同じお洋服の「**体系見本市**」の様。

帰り際、彼女がひとこと言った・・・「**このお洋服、デパートでは特選売り場で買ったのよお・・・**」。

生まれ変わっても・・・

ある週末の、窓から春の兆しを含んだ光がキラキラ遊んでいる穏やかな朝。

トーストにサラダ、ヨーグルトにコーヒー、それに、バナナを添えてゆっくりした朝食。

何だか、満たされた気分。

「ねえ、私達って幸せな結婚だったよね。」

何故だか思わず感傷的になって口ずさんだ私。

「うん」と主人。

お調子に乗った私、「生まれ変わってもまた同じ生活を一緒にしようね〜っ！」

「・・・・・・・・」

ありゃあ？この「間」は何じゃ！

この「・・・」は予期せぬ事だったので、ちょっとうろたえる私。

「**勿論 そうだね！**」という返事が、当然すぐに返ってくると思っていたのに・・・。(…;)

おもむろにいったぞ！

「**もう少しゆったり過ごしたいね！**」・・・。

(°.°)うっ・・・。

わん！こりゃ参った！

いつも「ママが一生懸命何かに取り組んでいるのを応援するのが僕の喜び！」みたいなことを言ってくれていたのに・・・。

ほんの出来心で軽く言った「生まれ変わっても・・・」発言なのだから、「**うん、そうしよう！そうしよう！**」でいいじゃないさあ！

そんなに真剣にならなくてもお！

私だって次の瞬間には「だ～れが！」という気にならないとも限らないのにい！

結婚以来の色々な出来事が走馬灯のように頭を駆け巡る・・・。

舅・姑・小姑（5人！）のわんさかいる家に新婚から同居して、

10人家族に揉まれ揉まれた**けなげな**（？）私。

一緒になってからの40年が一瞬に蘇る。

アノ時の事！この時の事・・・。

決して全てが上手く行った訳でもない越し方・・・。

でも、手を取り合い頑張って来たじゃないい～～。

もう知らない！（-_-;）

これは私の心の中の会話。

一瞬の動揺の間も、穏やかな春の光が窓で踊っている・・・。

「そうね。じゃ、そうしようね！」と私。

これで二人の会話は終わり。

ほ～ら・・・。やっぱり私って良い奥さんでしょうがああ！

あれれ、ちょっと的が外れてた・・・。

「もうちょっとのんびりと」生活するなら「OK！」という意味だったのね。

でもさ！

彼が結婚を決める時上司に報告に行ったら（職場結婚）、「彼女のような【**ジャジャ馬（!）**】を乗りこなせますか？」と聞かれて「勿論大丈夫です！」と見栄を切ったと聞きましたよ！（勿論、冗談でしょうが・・・）

アノ時覚悟を決めたんじゃないの？

それにしても上司殿！何故に私を「**ジャジャ馬!**」と?????! 信じられない！（-_-

;)

そういえば某銀行に勤めていた独身時代は、「お茶」「お花」「お琴」「書道」「絵」と、一週間をフル活用。

しかも、寸暇を惜しんで自分の通勤用の洋服を作って「自作自演」の日々・・・。

男性とのお付き合いなど「暇が無いのでごめんなさい！」だったなあ・・・。
その隙間に入り込んできた主人は確かに凄い！

結婚してからの私は、二人の息子を育てながら、主人の姑・小姑・弟嫁たちのお洋服を一手に引き受けて（洋裁学校歴は無し）頑張った！

（それが現在のドレス製作の基礎）

なにもかも手作りで育てた我が家の幸せ。

貴方の整髪も40年してあげたでしょうが・・・。　ぐちぐちぐち・・・。

「ジャジャ馬」をメトツタ貴方が悪い！（-_-;）・・・。

あれ？やっぱり私の不利！

来世は「大和なでしこ」を・・・と希望されても仕方がないか・・・。

とつ・おいつ・心の中は右往左往。

数日後その話題に触れたら、「何？それ・・・」だって。

きまぐれな気分で何となくの返答だったよう・・・。

そうよね！そうよね！当たり前よね。

「貴方はわたしのもの」。

それにしても、こんなにナイーブで内気な私を、どうして「ジャジャ馬」なんて言ったのさ！上司どの！

40年前の事を思い出して、心の中で「リベンジ」している私。

やれやれ・・・。

このところの私の加齢現象には本当に参る！

鏡に映る我が顔のシミやたるみ。手当てをしてこなかったツケがどっと押し寄せた感じ。

PCや洋裁の仕事のメガネ着用のまま鏡を見ようものなら、
卒倒しそうな酷さ。

でも、これが私！いいのいいの・・・、おじいちゃん（主人）が何にも言わずに受け入れてくれているんだからと、最後は逃げ道を考えて諦めに入る。

「これからお嫁に行く訳じゃないも～ん！」

それにしても、よくぞこんな私を大事に思ってくれているものよ！と、主人の太っ腹（
といっても、私の方が10kgも体重は重い！）に感謝！

ほんとは主人の好みは「八千草かおるさん」。しなやかなやさしい女性らしさが漂う人。
わたし、密かに好みの人を知っているんだあ。

でも、私が彼女の真似をしたところで・・・。ねえ・・・。

自分なりには身だしなみにも気を付けているつもりだけど、この加齢現象は加速して行く模様。

鏡に向かい、眉を描いている時にいつも思い出すテレビでの一コマが。

ある老人施設の撮影での事、車椅子を押して散歩中のお婆さんにご主人らしき姿。

おばあさんの顔のUPで「あれ？」・・・。眉毛の両方が繋がっているのだ。

それも太々と。

柔和な笑顔でおじいさんの車椅子を押して楽しそうに野の道を散歩するのどかな風景が、
一瞬不思議な世界に。

付き添っている看護の方が雰囲気を感じて、こうおっしゃった。

「おばあさんは、おじいさんの好きなことは何でもするんですね」

やさしく話しかけるその方に、おばあさんもしっかり。

話によると、お化粧をした太い眉をおじいさんが「素敵だよ」って褒めたのだとか。それ以来、だんだん眉を太く長く描くようになり、ついには一直線の眉にまで発展したとか・・・。

他人の目にはびっくりするようなお化粧も、本人には「亭主の好きな・・・」の素敵な意思なのだった・・・。

それを柔和な瞳で見上げる車椅子のご主人も、何の不思議も無いかのよう・・・。

それはそれは素敵な「夫婦」の姿でした。

「亭主の好きな・・・」・・・

私には絶対なれない「大和なでしこ」風女性。でも、心だけはそうありたいとは思っているのだが・・・。

良い子にしてるからぁ・・・

3ヶ月ごとに薬を貰いにいく病院でのこと。

そこは国立の「ガンセンター」。

話せば長くなるけれど・・・（長くなりそうなのでこの先はカット！）、私はここへ3ヶ月毎に通ってはや7年。

すっかり「患者の最長老」になりかけているこの頃。

暑い夏の予約日。ふうふういいながら出かけていき、大いに待たされた後、久しぶりに血液検査を。とのご命令。

検査室へ向かうと、向こうから子供の声がある。

良く聞くと「良い子にしてるからぁ～！」という涙混じりのだだをこねている声。

どうしたんだろう・・・。何でこんなところに子供が？といぶかりながら声の主を探すと、いたいた！

若いお父さんと、2才位の女の子と、だだっこ男の子4才位が、三人で廊下の目立たない隅に固まりあって座っている。

「いいこにしてるからぁ！」「いいこにしてるからぁ！」

お父さんの胸の中から見上げながら、何度も何度も同じ言葉を訴えている男の子。

もう一人の女の子を膝に抱き、だんだん大きな声になってで叫ぶ男の子の頭を時々撫でながら、優しく「しっ・・・」と口に手をやるお父さん。

それでも同じ言葉を繰り返す。「いいこにしてるからぁ！」

すこしづつ大きな声になってくる僕。

そうか、お母さんが検査を受けているんだ！

そして、ただならぬ気配でおかあさんの危機を感じているんだ！

検査室に入っているお母さんを廊下の片隅でひっそりと固まって待つ親子三人。

私が採血室に入っても「いいこにしてるからぁ！」という声がずっと聞こえて

いた・・・。

気が付くと、下の待合室に親子4人の姿があった。

支払いをしているお母さんを、三人の塊がしっかりと寄り添ってまっていた。

見かけは元気そうに笑顔もあるお母さん。

それだけが救いだったが、それからのあのご家族に平和が訪れているのだろうか・・・。

あれから3ヶ月が経つ。

間もなくまた予約日がやって来る。

あの「いいこにしてるからぁ！」と訴えていたあの坊や。お母さんの胸に顔をうずめて
いるかな・・・。

「いいこにしてるから、お母さん元気になってね！」という叫び声が今も頭から離れ
ない。

「いいこにしてるからぁ！」 「いいこにしてるからぁ！」

視力が悪いと

いやはや、このところの老け具合のひどさには参った！

何より困ったのが「目！」

老眼鏡をちゃんとめがねやさんで作って貰ったがどうもそれも合わなくなってきたらしい。

私の目ときたら、「近視」で「乱視」で「老眼」、おまけに「めつき」も悪い。

目が悪いと・・・の話・・・

昔昔のその昔、社会に出たてのうら若き人だった頃のお話。

朝の通勤のバスをまっていると、三歳上の兄の友人と目が合った。

「おはようございます・・・」小さな声でご挨拶・・・。気が小さい私はそそくさとバスのなかへ。

さあ、それが大変な事に発展してしまったのでした・・・。

なんと、人違いだったんです！

それも、それも・・・、その人はなんと以前から「なに」だったらしいのです。

「なに」ってなにか？って？

今の私がそんなことを言っても誰も信じないでしょうけど、取りあえずその頃は一応若い人並みな女の子だったのです。

で、その方は、常日頃からガンをつけて（あ、目ですね・・・）毎日見ていたんですって。

それがある日、恥じらいながらのういういしい（？）「おはようございます・・・」。

さあ、その方は舞い上がってしまっ、その後はなんじゃら・かんじゃら！

もち、事実を間接的にお伝えしたのはゆうまでもありません。

目が悪かったばかりに・・・人違いしたばかりに・・・失意からその方の運命まで変えてしまったのでした・・・。

（ちょっと大げさかな？）

・・・と、笑えない遠い思い出・・・。

さて・・・、

この頃の私ときたら、乱視用の眼鏡の上から「カチャッ」と掛ける小さい「跳ね上げ式老眼鏡」を被せて、まるでハンコ職人さんのようなイデタチをしていることが多いのです。

で、パソコンの前ではそれなりの老眼鏡を。そして、洋裁をする時には、またそれなりの度数の眼鏡をして・・・と、目まぐるしく掛けたり外したりをやっている日常。

先日、さ～て寝ようか・・・と髪に手をやり、カチューシャ（髪止め飾り）をはずしたら、何かまだある・・・。

「ん？」あわてて手でまさぐると眼鏡！、「いや～ん、眼鏡を上にあげていたわ」。ややっ！まだ何かある！

再び暗闇の中を手さぐり・・・。ありゃりゃ！また「眼鏡！」それも、例の2重の「跳ね上げ式眼鏡」！

なんということ！

合計3つも頭の上に老眼鏡を載せていたのでしたあ！

しかも、カチューシャまで・・・。

道理で今日は頭が重かったあ！

どこへ・・・？

今日はコンサートへ出かけた。

MEME作成のドレスが活躍する舞台（主客転倒！）を見に（聞きに！）池袋の芸術劇場へ・・・。

イタリアンシルクの「朱色」の生地に、胸の部分に黒のベルベットをはさみ、金と黒、赤を基準にした同系色のビーズで刺繍を施した、お手間入り。

さあ～て、舞台映りはどうかしら・・・。

会場に吸い込まれて行く人波を見ると、いつも胸が高鳴ってくる。

「何千人ものこの方々が、舞台上で一時間はMEMEのドレスを見続けるのだわ！」

作る時は、ただ楽しく仕事に没頭しているのだが、皆様の反応をここへ来て初めて感じて慌てるのはいつもの事。

もう、10年以上もドレスに携わっているのに、「学習」が足りない私。

さて！開幕！

ひとしきりのしわぶきの後のシーンとした緊張感！

と！・・・

カツカツと足音も高く舞台上に登場した「かのドレス！」

イタリアンシルクのきぬずれの音も聞こえんばかりの静寂の中、手塩にかけた我がドレスが風を孕み、風を捲いて裾のトレインも鮮やかに登場！

胸がたかなる・・・。

ん！胸の黒がぐっと効果的！刺繍がライトにどう反応しているか・・・。

「ラロ：スペイン交響曲 二短調 作品21」（ヴァイオリン協奏曲第2番）・・・。

素晴らしい・・・。いつもの事ながら、さすが世界の小○美恵さん！

華奢な身体からエネルギッシュな旋律がほとばしる。

クライマックスの身体のしなりで、ビーズ・スパン・ラインストーンがきらきら光る。

う～ん・・・。綿密に計画した、スペインをイメージして作成したドレスのカラーもスタイルも、成功！成功！大成功！

カーテンコールが7～8回。熱狂的に拍手は鳴り響く・・・。

こんな大舞台にMEMEのドレスを着て下さることに感謝！
何千人の人々の拍手の中第一部が終わり、ホォ～ッ！！

★

さて、二部の「ベルリオーズ：幻想交響曲作品14
「ひとりの芸術家の生涯のエピソード」

のオーケストラが始まる。あまり聞き慣れない曲だ・・・。

彼女が、今回も素晴らしいお席をご用意して下さい、珍しく2階席。
いつもは一階の前の方の指定席が多いので、二階席は全体が見下ろせて新鮮な感覚。

この曲ではドレスの心配からも開放されて、リラックスしてオーケストラの曲に耳を傾ける・・・。

曲が進むにつれて、だんだん曲から思考が離れていく。（聞きなれない曲だからか、ドレスの大役が済んでほっとした為か・・・）

メンバーの後ろ列に陣取るティンパニー。大太鼓。左に座って出番をじっとかたずをのんで待っているシンバル係り（?）。

お、出番だ！。おもむろにシンバルを取り上げたぞ。じっと待つ。じっと待つ！。
それ！ジャ～ン！

あらら、折角頑張ったのに、他のパートも目一杯力を込めて演奏するクライマックスなので、全然目立たない。残念でした。

そのうち、最左に座っていた人が（シンバルばかりに目が行っていたので、何をしていた方が分からなかったんだが・・・）つい！と立ちあがると、なんと、
おもむろに舞台の左を蟹歩き姿勢で出入り口に向かう・・・。

うぬ???

もしかして、急にお腹が痛くなったとか？はたまた、楽器を忘れて取りにいったとか？

彼が居なくなっても、そのまま曲は進んで・・・。

と、ある楽章まで来たところで、突然、何処からともなく綺麗な鐘の音が鳴り響く・・・。

見渡しても、鳴り響く鐘を打っている人はいないようだ。

とすると、彼が裏で打っているのかな???

えっ？えっ？・・・

疑問のうちにシンバルおじさんの出番が多くなるクライマックスの演奏が鳴り響き、じゃ～ん！！で「幻想交響曲」が終わった。

もしあの「鐘」担当者だったのなら、盛大な拍手の渦の中、そっと（大威張りで）席に帰っても良さそうなのに、その「消えた」おじさんは帰ってこなかった・・・。

どこへ・・・？なにしに・・・？どうして・・・？

疑問だらけで素敵なコンサートは終了したのだった！

それにしても、どこへ???

後に、音楽通の兄にその話をしたところ、「あの曲はそういうことになってるんだ」とのたまう・・・。

舞台に「鐘」は上げられないから、舞台以外の所で打つのだそうなの・・・。

でも・・・、蟹歩きでこっそりと舞台を去ったあの方の行方が気になって気になって、オーケストラに打ち込めなかったのは残念だった。

無知は「損」・・・！

2ヶ月前に「**带状疱疹**」なる不思議な病気に罹ってしまった。

良く耳にする「痛いんだ～あの病気にかかると！」という話は聞いていたのだが、さて、自分になってみると、何とも鬱陶しい。

左の目の上がごろごろするなあ・・・と思っている間もなく、お岩さんのように腫れてきた。

それと同時に、電気くらげになったかと思う程その周辺が【びりびりびり】しまいには、細い目がもっと細くなり、顎を突き上げないと前が見えないようになっていたらく。

しかも、びりびりが頬から唇にまで広がってきて、こりゃ～絶対に変！と不安になってくる。

しかも、しかも、熱がある感じ。

ふらふら・びりびりしながら電気くらげのように放電しながら歩いて眼科へ・・・。

やっぱり「带状疱疹」が目に来ているとか。

皮膚科にも行きなさいとの命令で、まともや電気くらげの如くビリビリふらふらと皮膚科に・・・。

それからは病院通いの梯子で毎日【びりびり】との戦い。

耳や頭や、ついには首の後ろまで痛くなってきて、「ああ・・・。美人薄命かな・・・」と密かに「美人の仲間入り」をホクソエンダリしたものだ。

ところがどっこい！

やっぱり「世にハバカル運命」が付いているらしく、徐々に回復に及んで、やっと痛み止めから開放されたのが一ヶ月半後の事。

瞼にへばりついていた「**かさぶた**」がようやく取れて、あ～さっぱり！

まだまだ赤みは残っているけれど、これで「お岩さん」から脱却！とよろこんだ。

と！

何やら左目のまぶたのあたりがすかすかしている・・・。

近眼で老眼で小さくて細い目をよ～～おく見開いて観察したら！！

無い！有るか無しかのけなげな我が睫毛が、ごっそりカサブタと一緒に消えている！
つまり **瘡蓋に睫毛が生えている！！**

ただでさえビューラーにはさまらないほど短い我が睫毛だったのに、左目三分の一がごっそり無くなってしまい、あららあ・・・としばし呆然。

でも、そこがわたくし！ 考えた！

「これからお嫁に行くわけじゃ無し！ ドンマイ！ドンマイ！」

それにしても、「睫毛がなくなったあああ！」と騒ぐ私にのたまった主人の言葉！

「大丈夫、大丈夫、全然気がつかなかったよ。」。

そりゃないでしょうがああ！

ま、彼なりの慰め方だったのだと思ひましょう・・・。

う～ん・・・。

睫毛の有ろうと無かろうと、見栄えは変わらないとな・・・？

もしかしてこっちの方がショックだったかも。(°°)

今日は土曜日。

二階に住む孫娘の「はぴ」ちゃんからまた電話がくるかな？

「おばあちゃ〜ん。今日泊まりに行っていていい？」
にんまりしながら「ママがいっていったらね！」。

かくしてまたうれしい泊まり客の来訪となるのが毎週の常。
ここに二世帯住宅を建ててから早3年近くになる。早い早い。

孫達も小4と小1に成長して、めっきり大人っぽくなってきたので、この習慣もそろそろ終わりかな・・・と思いながら大事にしているこの頃。
もう、小4のお兄ちゃんは余程でないと泊まりに来ない。
早朝からの「少年野球」の練習を気にして、早々の就寝を心がけているから・・・。

思えば、ここで一緒に上下の階に住むようになってから、心落ち着いた素敵な時間を過ごしてきた。

長男一家に感謝！の気持ちがふつふつとして来る。

2年ほど前のある土曜日。

「お泊まり保育(?)」の夜、動物のテレビを見ていたはぴ。
食うか食われるか・・・のシーンを見て言った。

「ライオンって悪い！生き物を食べちゃうんだもん！」

あまりの憤りに、私は言った。

「でもね・・・。みんなそうやって生きているんだよ。はぴちゃん・・・。
だってほら、おばあちゃんちの玄関につくった「つばめ」の巣にいる雛だって、生きた蛙やトンボやムシムシちゃんを食べて大きくなっていったでしょう？」

ハッとしたようなはぴちゃん目。

話を続ける・・・。

「人間だって、お肉やお野菜を食べて生きているでしょう？」

お野菜だって、お米だって、みんな生きていたものなんだよね。それを頂いてはぴちゃんも大きくなっていくんだよ！」

真剣な目になったはぴに、「悪者」ではなく、自然の摂理なのだということを説明しようとして、ちょっと戸惑う・・・。

「だってえ～！鹿さんを殺したんだもん！悪いよ！」

「はぴちゃんもみんなも、お肉大好きだよね！おいしいよね！
そのお肉も、豚さんだったり牛さんだったり、鳥さんだったりしてたんだよ。
それを人間が食べるんだから、みんな同じなの・・・」

じーっと私の目を見つめて無言のはぴ。

と・・・。目に涙がふつふつと溢れてきて、叫んだ。

「だってえ・・・だってえ・・・」彼女の頭が混乱している・・・。しまった！ちょっと早すぎたか・・・。

拒食症になったらどうしよう・・・！

だんだん激しく、のどちんこまで見える位真剣に泣き出したはぴを抱き寄せ、「ん～んよしよし・・・、はぴちゃんはいいこだ・・・」と意味のないことばで抱きしめている私。

どうなることかと心配したが、その後、その問題からさらりと逃げられてほっと一息！
翌朝の食事のハムもおいしそうに食べてくれた・・・。ほっ！

いや～・・・どきどきの一瞬だった。

宮沢賢治の「なめとこ山の熊」の心境に達するのは容易ではない。

*【なめとこ山の猟師で、毎日猟で熊を仕留めて生活している男の話。

殺生はそれはそれ。しかし、生き物に対しての崇高な感謝と敬愛の気持ちを持ち続け、夕焼けの中、仕留めた熊に祈りを捧げている・・・。

そんな話だったように記憶している。

人間って・・・。矛盾だらけ・・・。

これからも、いろんな矛盾に出会うだろうはぴちゃん達。そして私。

でも、人間って、動物って素晴らしい・・・。

今日は日暮里まで生地選びに出かける。

梅雨特有の曇天。

この季節は、私・並びに次男くんにとっては試練の季節。

昔からどうした訳かこのじめじめとぼよ～んと淀んだような空気が苦手。

次男くんも体質が私にそっくりで、「琵琶」が店頭で並ぶ頃には決まって大熱を出すのが常だった・・・>(*_*;

さすがに最近はおっさんになってそんなことも無くなったようだが・・・。

それはさておき、今日は日暮里を歩き回る予定なので、長男から買って貰ったおニューの運動靴（あ、ウォーキングシューズっていうんですね）を履いて颯爽と（どたどたと）車中の人に。

この薄茶の運動靴（あ、ウォーキングシューズ・・・）は、私にとっては生まれて初めての1万5千円もした運動靴（あ・・・ウォーキ・・・えい！以後運動靴と呼ぶ！）。

先日、二階の息子一家と一緒に外食したあと、みんなで量販店に。

「おばあ、またまた太ったみたいだね・・・。そのお腹すごいよおお！」

長男の言葉に、今頃気づいたのかえ・・・とおどけてふてくされる私。

「これじゃあ長生きできないよ！よし！今日僕がウォーキングシューズと万歩計を買ってあげるから、毎日おじいと歩くこと！」

長男に強引にシューズコーナーに連れて行かれて、ああでもない・・・こーでもない・・・と、物色して決まったのがこれ！

「あえ！こんな運動靴が1万5千円！ うそ！」

私の常識では考えられないお値段！

外出靴でもそんな高いお靴は買ったことがない・・・。

それなのに、たかだかこんなドタ靴が・・・。

「ちゃんと足に合った靴で歩かないと返って膝を痛めるから、このくらい出さないと。

僕がプレゼントするんだから、タダだと思えばいいんだから」

そこで、生まれて初めて1万5千円也！の運動靴がわが物に！

ほかほか気分でお揃いの薄茶の靴を胸に我が家に帰ったことでした。

暫くして、孫がピンポンと二階からやってきて、「はい！残金！」

何だろう・・・と差し出した封筒を覗くと、なにがしかの現金が・・・。

息子は、毎年ボーナスの中から「旅行にでも行きなさい」とやさしいお恵みを包んでくれるのだが、そのお恵みから、ちょっぴり運動靴分を引いたものを持ってきてくれたのだ。

主人と大笑い！「残金」だって！ふふふ。

そんな高級運動靴でのお出かけなのでした！

息子よ、あんがとさん！

産んどいて良かった！ !(^^)!

このところ、めちゃくちゃ忙しい・・・。

あれもしなくちゃ・・・これも期限が・・・と、頭の中がぐるぐるしている。

*「MEMEのドレス」（新サイト・webショップ）用のドレス作品を作成。

（少なくとも5～8点は用意しなくては・・・）

*晋遊舎 【Windows100%】月刊誌への素材提供の年賀関連素材作成（11/13日発行）

（発買日までには「干支のひつじちゃん」をUPしておく約束。

*桃園書房 【即プリしよう！ 超カンタン年賀状】 冊子への年賀状素材作成

（11/1日発行）（同じく発売日までにはCDからリンクの「年賀状」を2003年用にしておく約束）

*友人の退職祝いに二泊旅行に。

*孫の野球試合の応援（千葉県代表チームで関東大会に！）

毎週勝ち進む度、うれしい悲鳴！

*母「けい」の入院で近日中に見舞いに新潟へ・・・。

*ボランティア団体「あしながおばさん」のバザー（11/15）用の作品作り

（テーブルランナー数本。ワインホルダー数枚。バッグ数品。などなど）

*ドレス生地購入の為、日暮里に・・・。（10/31）

*定期検診の為病院に（11/14）

*油絵教室の野外スケッチ会（10/22）

*展覧会への作品搬入・搬出

などなど、ここ暫くは目も当てられないばたばた加減・・・。

話変わって、一年位前のこと。

二階の息子宅での食事にお呼ばれし、息子自慢の美味しい「フィジリ」（スパゲッティ料理）に舌つつみをうっていた。

当時も相も変わらず忙しかった私。

なんじゃら・かんじゃら話していると、息子が当時小4だった孫に言った。

「は～い、そこで問題！。四文字熟語で、【自分で始末出来ない程の仕事を抱え込んで、あたふたわあわあ騒いでいるさま】を何と表現するでしょう！」

おばあちゃんの話聞いていなかった孫君、きょとんとした後、即座に言ったものだ！

「自業自得！」

「・・・・・・・・」

一瞬の後で大爆笑！

習い始めた「四文字熟語」に凝っていた孫。

正に正解！(～～;)

まさにその通りじゃあ・・・。

今、その「自業自得」の言葉を噛み締めながらも、頑張っている日々。

・・・でも、やっぱり今もPCの前にへばりついて・・・。これはいったい何なんでしょう？？？(～～;)

もうすぐ65だよ！MEMEさんよお。

それにしても、本当の正解「四文字熟語」は何でしょう・・・。^^;

満杯！

ここ数日、「ドレスの小路」でやっていた「生地プレゼント」の追加応募が4名程あって、またまた押入れの生地の整理にてんやわんや。

数ヶ月前に応募下さった20余名さまにプレゼント（ダンボール一杯づつ）をお送りした時も引っ張り出した生地に埋まった数日を過ごしたが、またまた大騒ぎ。

床面がやっと落ち着いて仕事が出来る状態に片付き、ほっと一息。

そこでつらつら考えた。

私って、どうして生地をこんなに溜め込むのだろう・・・と。

日暮里繊維問屋街を歩いていて、ふと手に取った生地を見ているうちに、完成した洋服のイメージが湧いてきてつい買ってしまう私。

でも、他のドレス製作に追われているうち、いつしか自分の為に買った生地は押入れの奥に・・・。

そんな連続から、性懲りもなく溜まっていく生地。

他に何の贅沢もしない私に許されたたった一つの楽しみ、「生地やさん」巡り。

多分、これからもきっと続く事だろう・・・。(^_^)

押し入れスペースに少しゆとりが生まれ、ちょっといい気分。

こうなると、他の箆笥の引き出し等も空き空きにしたい衝動が・・・。

テレビドラマでは、「拳銃は何処だ！」と探したり、「遺言状はあの引き出しの中に・・・」と引き出しを開けるシーンが良く出て来るが、決まって綺麗にカラカラしている。

あれを見る度、憧れてしまう私。

私がイマワのキワで「わたしの遺言状はあそこの引き出しに・・・」と告げたとする。息子が駆け寄り、引き出しをそっと開ける・・・。

・・・・・・・・・・ない・・・・・・・・・・。

そう、満杯の為、ひっかかって裏に落ちている可能性あり・・・。

そんなの嫌だあ！

身辺整理を心掛けよう。

いつ何が起こっても仕方がない年になったのだから・・・。(一一;)

新潟の母「けい」（95歳）に無性に会いたくなる時がある。

会っても私のことは霧の中だということは分かっている、ほっぺとほっぺをくっ付けて温かさを感じるだけでいい。

病院で手厚い看護をして貰い、個室で静かに過ごしている最近の母。

ここへ辿り着くまでの心の彷徨は、老いるという事の切なさを私達にしっかりと学ばせてくれた。

けれど、昔口ずさんだ百人一首や歌は心の奥底にずっと忍ばせていて、不思議に思い出してくれる。

先日会いに行った折、妹が手を取りながら耳元で好きな歌【旅愁】を歌うと、ところどころ小さな声で付いて来るのを発見！

更け行く　　秋の夜　　旅の空の
寂しき思いに　　一人悩む
恋しやふるさと　　なつかしちちはは
夢路にたどるは　　故郷の家路

この「旅愁」の歌詞は、子供還りした母の意識の中で一番胸にくるものだったようだ。女……。嫁いで姓が変わっても、老いた心が行き着く先は「ちちはは」のふところの温もりなのだろうか。

「おっかさまあ」「あねさまあ」とベッドの中から呼び続けた一年半程前のこと、母が何回かショートステイをしたことがあって、そういう施設をはじめて見る機会があった。

いろんな状態の方がショートステイやデイサービスを受けていて、食事時になると全員が車椅子で食堂に集合する。

母の前に座った方の胸が不自然にぽっこり膨れているのを見ていると、付き添っていた姉がそっと教えてくれた。

「あの方、セーターの中に、いつもミッキーちゃん人形を入れているの。」

穏やかな笑顔を浮かべた静かな物腰のその女性は、その後見かけた時もぷっくり胸で座っていた。

今もその光景を思い出す度に胸があつくなる。

それぞれの人生を精一杯生きてきた方々……。とても考えさせられた一日だった。

今ではそんな時期が懐かしい加齢進行状況の母。

それでも「旅愁」を口ずさんでくれたことで、胸の中に灯火を貰ったような気分で千葉に帰ったことだった。

かけそば

この度の神戸の「MEMEと語ろう」の会で、問われるままに答えた私と主人の越し方。東京の本店から新潟支店に転勤してきた主人と、若い連中でグループを作り、あちこち楽しく遊びに行ったりして2年半、再び東京の本店に帰った彼と職場友達結婚（恋愛結婚ではないような・・・）した私達。

苦学で大学を出たという彼の、何事に対しても「一生懸命に取り組む」姿勢に心惹かれた私だったが、6人兄弟の長男という大家族の中に突入する暴挙（？）に出た私に周囲の皆の驚きは大きかった。

彼と結婚した私は、東京の下町、寅さんで有名な葛飾区で、総勢10名という大家族の一員として出発した。

新婚間もなくのある日、用があって二人で出掛けたついでに立ち寄った古い小さな間口のお蕎麦屋さん。

主人がとった「かけそば」を、私も・・・と同じものに。

つるつると食べていると、ぽつりと主人が言った。

「毎日のように大学へ行く前に、ここのかけそばをすすってから行ったけど、当時は何より美味しかったんだよなあ・・・」

「えっ・・・」

そうか・・・。職場から大学に行く時に立ち寄ったお店だったのか・・・。

毎日家に帰るのが11時頃では、お腹が持たなかつただろう。

いつしか私の目から涙がこぼれていた。

紅顔の小柄な青年が、ここで毎日一人かけそばをすすっていたのか・・・。

向学心に燃えて、寝る間も惜しんで学んだ「学歴」も、所属する職場では「入行時以降」は全く反映されないシステムだったが、それでも学ぼうという意欲は本当に素晴らしいことだ。

「あの頃とちっとも変わってないな・・・」と古びた小さな店内を見回す彼。

茶色にくすんだ壁紙や、幾つかのテーブル。

それらが毎日あの頃の彼を見ていたのだと思うと、私の知らないセピア色した彼の歴史を垣間見た気がした。

いとしさと尊敬の心が入り混じり、私の知らなかった彼の若き日に思いを馳せていた。

経済的事情があって苦学した彼。

ちっともそれを語る事が無かった彼。

人何倍もの頑張りやの彼。

彼と結婚して良かった！絶対幸せにしてあげる！

そんな熱い思いですすった「かけそば」。

久しぶりにあの時の事を思い出したことだった。

(などと・・・。(^_^)

「MEMEと語ろう」会

神戸のシルバーカレッジOBの方々からお声を掛けていただき、私MEMEとしては一世一代・前代未聞の事件が起こったのが

「MEMEさんと語ろう」という会の企画施行。

人の後ろに居ることで安心しているような私の生き方に、大革命が起こった！
今までの私なら「そ・そんな・・・」と後ずさりするお話だったが、何故か「はいはいはい」と引き受けてしまったのが不思議。

それだけ「ホームページ」について皆様とお話がしたかったのだと思う。
最初は10名から20名位でテーブルを囲んで「シルバー時代のパソコン利用の楽しさ」を皆で熱く語れたら・・・と気楽に思っていたのも事実。

それが！なんと100名近い方々の前で・・・！という事態になり、あたふた・・・。

その日が来るのをどんなにドキドキして過ごすかと思いきや、良くしたもので、コンサートを控えた急ぎのドレス作成を抱え、ばたばたして過ごしていたのが幸いし(?)、何とかその日を迎えてしまった！

その間、一応原稿らしきものは何とか打ってはおいたが、はたしてお話出来るだろうか・・・。

この「心臓」は、何処から身についたものやら。
体格が「どすこい」になったのに連動して、心まで「どすこい」になっている自分に驚ろきながら新幹線の客に。
心配した主人も同行してくれたのがなんとも心強い！

さて、肝心の会の模様は・・・。
生憎の雨の中を沢山の方がお集まり下さり、もう、それだけで感激してしまった。

折角早起きして厚化粧をし、髪を巻いて出かけて来たのに、雨と汗でどちらもオジャン！

もう、何が何だか分からない内に壇上の人に・・・。

取敢えず頼りの原稿を片手にしっかりと握り締めて・・・。

ところが！ここから悲劇が始まったのです！

なんと！設置されたスクリーンにMEMEのホームページを写しながらお話する為、室内の照明を暗くしてしまって、頼みの原稿が見えない！

(事前にスクリーンを使います・・・との連絡があったので、そういう事態を察知すべきだったのに、アバウトに受け止めていた私の失敗！)

さぁ！それからの私の話は、思いつくまま迷走ダッチロール。

思いも寄らない事を口走ったり、自分で何を話したかも思い出せないような舞い上がりかた。

でも、「けいの部屋」の母子像に付けていた「母こそは・・・」の歌をY様の先導で皆で斉唱したり、夢中で話をしている内に、「2時間が経ちましたので、この辺で質問コーナーを設けます」との主催者のお言葉。

え～っ！まだ始まったばかりのような気分なのに・・・。もう2時間？

そう言えば、声もがらがらになっているってことは、しゃべり捲くった証拠・・・。

(^_^;)

そんなこんなで、生まれて初めての(私にとっての)大イベントは終了したのでした！

今思い返すと、恥かしいことを口走ったり、誤解されるだろうなあ・・・と思える出来事を披露したり、と、反省する事が沢山あったが、それらは次回の「ことども」でじっくりと書いてみようと思う。

今度の神戸でのいろいろは、私の人生の中で特記すべき経験だった。

神戸の皆様の温かいおもてなしと思いやりに包まれて、未熟で(精神的)臆病で内気な「どすこいMEME」の勇気と冒険の一日が終わったのでした！

ご企画下さった方々に、心からお礼と感謝の言葉を述べたいと思います！ 多謝！！

これで又人間が一回り大きくなった気がします！（精神的にです！）どすこい！

風薫る5月13日

主催 【パソコン110番友の会・自然と文化の探検団】

場所 : クリスタルタワー6階（総合研修室）にて

最近私の洋服の色の好みが変わってきたのに気付いた。

見渡せば、グレイとかベージュとか、落ち着いた色ばかり。
赤に目が行っていた40台～50台が嘘みたい。

今の自分の顔に映えないのが良く分かってきたのだろう。
自然と静かな落ち着いた色に落ち着く自分。

ちょっと前までは「年令と共に華やかな色を着るようにしよう」などと思っていたのに、これは不思議な現象だ。

振り返って見ると、赤などに目が行っていた時代は、**女としての「焦り」**が有ったように思う。

達観した60台、自分の現在を受け止めざるを得ない状態になった時に選んだ色たちが「落ち着いた色」だったのだなあ・・・と。

ある電車の中の風景。

私の前に座った、60台と思しき女性。

黒いセーターに、全てのものを「赤」に統一している女性だった。

本来なら統一性もあり、素敵に見える筈のそのファッション。だが、見ていて辛くなってきた。

靴まで赤。ふと見れば、やはり年は争えない皮膚の状態・・・。

その時からかもしれない。「**赤**」は**着ないことにしよう**」と思い出したのは。

女性は何時までたっても女性。

でも、どんなに頑張っても皮膚はそれなりのお付き合いをしてくれる。

化粧品のコマーシャルで「町野ゆみえ・52才」などと隠した顔を「バァ」して堂々と言えるのは特殊な人だから。

あんな「**薄皮饅頭**」のようなつるつるぴかぴかしたピンクの肌をした「52歳」が稀有

な存在だから、ニッコリ登場するのであって、52歳のみんながあんなに美味しそうな顔をしていたら、お化粧品などいらぬ。

私もほっぺの皮を広げて「町野ゆみえ・52才」といいたいところだけれど、食パンの耳のようなものはしょうがない……。

いいの・いいの。

ちゃんと年齢に沿ってそれ相応に生きていけば……。

そこで「グレー」「ベージュ」の世界が出現したのです……。(-_-;)

ああ……。

追記

化粧品のCMの新バージョンで、「牧野ゆみえ」とテロップが付いているのを発見！

「まちの……」 私の耳が訛ってましたあ……。

追追記

今度神戸で「MEMEさんとホームページを語ろう」という会が催されることになり、主催者に自己紹介の為お送りした2年前のMEMEの写真。

まさかパンフレットに使われるとは……。

それが、赤いベレーに赤いマフラー姿だったのです。（最近「ガマの油」状態で、自分の写真を撮っていなかったの……）

それをWebで見つけた方から書き込み。「あれ？MEMEさん、赤は着ないんじゃないか？」

古い写真だということがバレバレ。 (^_^;)

ひとことで・・・

今日は6ヶ月に一回の病院通い。

がんセンターで手術をしてからもう9年余。

去年までは3ヶ月毎の予約通院があり、いつものことながらあの病院へ行く日は憂鬱な気分。

当日はせめて落ち込まないように、ちょっとおしゃれをしてエイヤツと気合を入れて出掛ける。

今日もそんな気分で車中の人に・・・。

乗り込む時、電車の入り口近くに車椅子の人が乗っているのが見えた。

混んでいる時間帯での止むを得ないお出かけはさぞ大変だろうなあ・・・と思いながら電車の奥の方へ移動。

乗り換え駅に着き、ざわざわと大勢が降りていく。

私も皆の後ろからついて降りようとしたら、前の女性が入り口近くで立ちふさがって降りる様子がない。

「降りますう」と小さな声かけをしたとたん！

「ちょっと！待ってくださいよお！」とつんけんした返事が返ってきた。

えっ？

つと見ると、先ほどの車椅子の方がホームに降りて道をふさいでいて、降りられないでいたらしい。

とはいえ、孫といってもおかしくないような女性からの叱責めいた口調を浴びせられた悔しさは胸に残る。

どんなに年をとっても、人間としての感情は同じ、いや、ますます強く感じるのではないだろうか。

実にやっかいなことだが、今日一日「ちょっとお！待ってくださいよおお！」のあの口調が耳から離れない。

私って器が小さいなあ・・・。

今日のような日は、早くベッドにもぐりこもう・・・。

明日になればこの口惜しさを忘れるだろう。

先日、NHK「プロジェクトX」でウォッシュレットの開発の苦労話を取り上げていた。

前にも一度見た事があったが、この番組は何度見ても新たな感動を頂けるところが凄い！

何気なく便利に使わせて貰っているいろんな物が、実は、試行錯誤の末に完成した苦労の結晶だという事に気づかされる素晴らしい番組だ。

人間的な器の小さい私にとっては、どんな苦労や挫折にもメゲズに歯を食いしばって目標に突き進む登場人物が眩しい。

会社の存続を背に背負いながらも、失敗の屈辱から雄雄しく立ち上がる男達！
決して特別な方たちではないと思う。

苦労の末、見事に世間から評価を受けるような成功を手にした人たちの数の、何倍もの挫折者がいる事だろう。

それでもこつこつと会社の片隅で「いつかは・・・」という希望を持ち続けて頑張る、名も無い研究者や実務者たち。

小さなことでくよくよし、「ドレスの仕事なんて止めちゃおうかな！」と落ち込んでしまう私の甘さをしっかりと感じる。

何事も、当たり前のように思っている事が、実は水面下の努力と血の滲むような思いで成り立っている事に思い至る。

折りしも、今、シアトルマリナーズの「イチロウ」が年間最多安打記録「258本」を84年ぶりに更新する快挙のニュースが耳に飛び込んで来た。

素晴らしいという他ない！

彼の打法を見ていると、ぽいっ！と軽くバットを振るだけの様に見えるが、私達の知らないところでの努力と研鑽は凄いものがあるのだろう。

我が家の長男や孫も野球小僧で小さい時から涙のシゴキに耐えているが、「好きだから」出来ることで、イチロウのようにチームの責任を背負ったプレッシャーの中での身体作りはさぞ辛いだろう。

でも、それを感じさせないバッターボックスでのリラックスした姿態はどうだろう！人間って素晴らしい！イチロウって本当に素晴らしい！

千葉の片隅に生息して、くよくよしたり感動したり、毎日それなりに充実した日々を送っているつもりの私。

そののなんと小さいことよ！

それはさておき、冒頭の「プロジェクトX」の洗浄便座に話は戻る。(～_～;)

彼らのお陰で毎日快適な生活をさせて貰っているが、便器のお掃除の複雑さには少々参っている。

全てに「雑なお掃除」が得意な私、やっているつもりでも直ぐに汚れてしまうのが難点。

友人の家で新しい洗浄便座を入れた時のこと、定年退職したご主人に退屈凌ぎに便座掃除をお願いして外出から戻って見ると、何と！新しいピカピカの便座に無数の傷が！乾いたペーパーでゴシゴシ擦ったらしい。

焦ってその上からまた擦って居る内にますますドツボにはまってしまったとか。

笑うに笑えない出来事を聞いた事がある。

掃除といえば、こんなことも・・・。

ある友人のお宅に伺った時の事。

神経質で、少しの妥協も許せないようなキッチリやさんのお宅は、見るからのキリリとした佇まい。

妥協だらけの私には、さすがあ！！と、眩しい室内。

思わず長居となってしまって、帰り際にお手洗いをお借りすることになった。

そこでびっくり！

便器の中が、茶色に変色している。

室内のぴかぴかさととの対比の凄さに、思わずタジログ。

帰りの電車の中で、ふと思いついた。

「彼女は、綺麗好きのあまり、ごしごし毎日毎日ブラシで擦ったのね・・・きっと。」
一度傷が付いたら、それが気になるからそれに上掛けてまた擦る・・・。
その繰り返しであんなことになったのだわ・・・。

もしかして、怠慢MEMEのやり方の方が正しかったのかも・・・ねっ。 と。
(ただし便器に関してのみ！)

「プロジェクトX」を見たのに関連して、便座のエピソードを・・・と思って書き始めたが、途中イチロウのテレビ中継が入った為に、何だか支離滅裂なコメントになってしまった。

そこで、まとめ

- * 日々何気なく使っている物にも、制作の苦勞と研鑽が裏にある。
- * 日ごろの鍛錬の積み重ねで、記録を作れる身体とチャンスが来る事。
- * 日ごろの几帳面さにも時として思わぬ落とし穴がある事。

つまり、家事怠慢MEMEにも一筋の言い訳が出来ることがある！ということの発見。
(^_-)☆

と・・・、こじつけてみる・・・。(ばしっ)

息子が転勤することになった。

我が家から新幹線通勤できる範囲の所なので、多分自宅から通うことになるだろうが、なかなか大変だろう。

「単身赴任しようかな・・・」などと、ちょっとわくわく感もあったりして落ち着かない模様。

羽をのぼしちゃうわよ～！！などと笑いながら牽制球を投げる私。

かくいう私達にも20年前にそんな転勤問題が持ち上がったことが・・・。

結局老犬の問題や息子の学校の問題などで主人には単身赴任して貰うことになった。

よぼよぼした明日をも知れぬ老犬「エリナ」を連れては転勤出来ない。

14歳のこの子は、旅行に行くのもいつも一緒、車の窓を開けて東名高速を突っ走ると、びゅんびゅん風を受けて毛をなびかせて喜んでいたが、寄る年波には勝てず、脳梗塞を患ったり心臓も弱くなってとても転任先まで連れて行くことすら出来ない有り様。主人とは単身赴任（というかイギリス留学）は一度経験済みなので、案外気楽に送り出した私。

周囲から「一人で放っておくところくな事はないわよん」などと脅されても、「うちの主人に限って大丈夫！」などと暢気な返事。

実際、「人畜無害度」「ルックス度」「真面目人間度」から考えて、どうみても「羽目はずす」人には思えないのが根拠。

それに、まさか彼が浮気などする筈も無い！

というか、対象にしてくれる方など有り得ない！

と、堅く堅く信じていた私。

そんな大きな口を姉に叩いていたら、こう言われた・・・。

「あなたが結婚しても良いかな・・・と思って一緒になった人でしょ？ そうだとすれば、世の中にあなたと同じ考えを持つ人がいても可笑しくないのよ」

つまり、あなた程度のお相手だったら浮気しても可笑しくない・・・と・・・。
そうだったのかぁ・・・！

それ以来、ちょっと謙虚になったMEMEでした！

勿論、二年半後には無傷で（の筈）我が元に戻って来た主人。

それからは「しょっていた」荷物を少し下ろしたMEMEになったと思う。
（かな？）

さて、息子はどうするのかな？

今、プロ野球が騒がしい・・・。

内部的には良く理解していない私だが、「ライブドア」と「楽天」の仙台拠点の取り合いには興味がある。

有能な若手起業家二人の先陣争いを見ていて、ふと思い出すことがある。

もう随分前の事、テレビに「子供の喧嘩」の場面が放映されていて、あまりに可笑しいので覚えているシーン。

幼稚園に何故か「やかん」がある。

一人の坊や（A）がその大きな「やかん」を何気なくいじっている・・・。

そこへもう一人の坊や（B）がやってきて、やっぱり「やかん」に興味を示し始める。

最初は何とか自分もいじってみようと、そっと手を伸ばしたりしているが、先の坊や（A）は急にやかんを保持しようと身構え始める。

さて、（A）（B）共に「やかん」を挟んでだんだん白熱してきて、ひっぱり合いに。しまいには、鼻水たらして泣きわめきながらの争奪戦。

先生が止めようが、もう二人には眼中にない。

みんなの注目の中、ぎゃあぎゃあ涙と鼻水を撒き散らしての戦いは、見事（？）（A）の勝ちに！

やったぜ～！ !(^ ^)!

その後の二人の様子が面白い！

負けた（B）くん、鼻水を腕で拭きながら、「そ～んなもん、最初から興味なかったんだよん！」というシラ～！とした顔でみんなの輪のなかに戻ってしまう。

さて、その場に取り残された（A）くん、死守したやかんを胸にしっかりと抱いたまま暫くポーッと立っていたが、良く考えて見ればこんな大きなやかんは自分も最初から別に欲しかった訳では無いことに気がついて、呆然とやかんを眺めている・・・。

そこで大決心！

僕もべ〜つにこんなのいらなんだ！という顔でその場にやかんをほったらかしてみんなの所に走って行く・・・。

かくしてぽつんと残された大きなやかんがひとつ写されている・・・。

「ライブドア」と「楽天」の仙台争奪戦を見ていて、そんな場面を思い出したことでした！

勿論、「仙台」拠点を競うからにはそれなりの魅力とメリットを計算の上なのだろうが・・・。

「ライブドア」は今でも内容は知らないのだが、「楽天」には少々関わってしまった経験がある。

「ドレスの小路」と「けいの部屋」の二つのサイトがお世話になっていたサーバー「COOL」が「楽天」に吸収されて、短期間に「引越し」させられたのだ。

あまりの強引なやり方に、COOLユーザーは訴訟騒ぎにまで発展しそうな雲行きだった。

例えば、URLが変わっても「引っ越しました」というindexだけは旧URLで暫く使用できるように配慮するのが普通なのに、それも許さず、やみくもにアドレス変更をさせられるとか、有料サイトの料金の途中契約破棄問題とか・・・。

そんな訳で、私的にも「お気に入り」に入れてご訪問くださる方に一時的には本当に申し訳ないことになった経験がある。

若さと強引さでここまで発展進展してきた「楽天」の生命力には感心するものの、「奢れる者久しからず」にならない事を祈るのみ。

プロ野球の平常化が早く訪れるといいな・・・。

今年も8月がやってくる・・・。

今から10年前の夏、私にとっては記憶に残る日々を経験した。
ガンセンターで「多分ガンです。手術をしましょう」の宣告。
日ごろの、只ならぬダルさと不調に悩まされていた私。

50台半ばの年恰好もあって、近所の医院で「更年期障害でしょう」の診断で済まされていたある日、新聞のある記事に目が行った。

「甲状腺ガンの症状」にまさにぴったり！の私の症状。
確信した私は、渋る医者をお願いしてCTスキャンで診察して貰った。
それまで「更年期障害ですよ」と受け流していた医者の態度が急変！

「ガンセンターに紹介状を書きます。直ぐに行ってください」。

主人と行った真新しい柏のガンセンターでも「ガンでしょうね、すぐ手術をしましょう」のお言葉。

それから入院までの数日は、身辺整理で押入れをひっくり返して過ごした。
預かっていた生地を事情を話して返送したり、暑い中を息つく間もなく過ごし、清々しい気持ちでいざ！病院へ。

「ガンですってえ？！ およよよ」みたいな気分は微塵も無かった。
近所の医者にがんセンターの診断を報告に行った時、先生がおっしゃった言葉！

「良かったですねえ！！ガンの診断がついて」

それほど悩まされていた「更年期障害」とやらの症状が、これで解決する！と思うと、うきうきしながらの入院だった。

結果的には「良性の腫瘍」だったのだが、17日間の入院でいろんな方々との出会いがあり、大げさに言えば私の価値観や人生観が変わった日々ともいえるものを貰った。

4人部屋の中のお一人、大阪から肝臓腫瘍の為入院していた方は、手術はしないで薬を注入することで治療していた。

数年前にプラスチック工場経営のご主人を亡くし、女手で社長を引き継いで来たこともあり、その地では肝っ玉女史で通っていたらしい。

遅く出来た一人息子さんを、中学から全寮制の超有名な進学校に入れ、希望と期待をかけて頑張ってきたのに、彼が東京のK大学に入学したとたんにお母様が病魔に襲われてしまったとのこと。

息子さんとの大事な7年間、敢えて別居までして良い大学に行かす為に頑張ってきた自分の生き方を、病床で行きつ戻りつ頭の中で彷徨していらっしやるのが何とも悲しい……。

「こんな運命なら、親子二人で寄り添って生活してくれば良かったのかしら・
・ねえ……。」

左の薬指には、大きな大きなダイヤの指輪。

「亡くなった主人と一緒に闘っているの」と。

大阪では「社用」で東京に来ている……ということになっているらしく、治療途中ながら仕事関係で一時帰阪。

その時は、病院の美容室で髪をセットし、大きな花柄の華やかなツーピースに身を包み、お化粧品もばっちり効かせて、本当にびっくりするような別人に変身していそいそと病院を後にした。

その後、私の退院の方が早くなり、お目に掛からないままお別れしてしまった。

後日病室に見舞ったら、受付で「あの後すぐに大阪の病院に移られました」とのこと。

数ヶ月後、入院仲間で食事した際、「彼女、その後退院なさったかしらね」と話が弾み、大阪の自宅に電話をしてみたら……。

「大阪の病院に帰ってきて直ぐに亡くなりました」とのご返事。

あんなに息子さんのことを想い、あんなに越し方を悩み、あんなに華やかに着飾って一時退院した彼女。

今でも思い出しては涙ぐむことがある……。

入院時のある朝、彼女はトイレから出てきて声弾ませて言った。

「みんなに見て欲しい位！」うれしいわ！今日は、ふわふわした綺麗な形をしたのが二つだったの、

その日の彼女の晴れやかな笑顔。

その事で苦しんできた人にしか分からない解決のうれしさを大きな声で報告する彼女を見て、一緒にうれしくなると同時に、涙が出てしまった・・・。

人間の本当の姿をそこに見たような気がした。

ブランド物に身を包み、息子さんの為ならと別々に住まい、地域の肝っ玉女史として頑張ってきた彼女も、一人の生身の女性。

いじらしい可愛い女性の姿がそこにあった。

そんな彼女は、それから3ヶ月も経たないで逝ってしまった。

今でも時々「ふわふわ！みんなにも見て欲しい位！」と叫んだあの時の彼女を思い出す・・・。

人っていじらしい。そして素晴らしい。

最近、すっかり忘れていた「あること」を知り、感動を新たに思い出した。

それは、私の入院・手術を機に、どうしても止められなかったタバコ（パイプ）をその日を境にピタッと止めた主人の心。

あれから10年を迎えようとしている。

我が家のスプーンが何時の間にやら少なくなっている。

怪奇現象か、はたまた知らぬ間に私が食べちゃっているものか・・・

(ん～な・・・！？)

兎に角スプーンが何時の間にやら何処かに消えているらしく、お客さんにコーヒーを出そうとして、数が揃わず慌ててしまうことが度々。

先日も揃わないスプーンでコーヒーを飲んでいる時、言い訳混じりに知人にそんな話をしたら、なんと！「うちもそうなのよ」といううれしい言葉！

我が家だけかと思っていた・・・。

つまり、私の道具の取り扱いが雑でこういうことになっているのかと・・・。

それも多分正解だと思う。

昔から、私の家事の速さには定評があったらしい。

毎日洋裁などをごそごそやっていて、切羽詰った家事の時間の捻出に、勢い馬車馬の如き行動に出るらしい。

前に友人家族が泊まりに来た折、一緒に朝の歯磨きをしていてびっくりされた。

「あなたのパワーの秘密が分かったわ！」

つまり、歯を磨く行動が「コマ落とし」のような速さなのだとか。

のんびりやの彼女の目に映った私の姿を想像して、今でもクスリ！と笑ってしまう。

人間、同じ24時間しか頂いていないのだから、何かをやろうとしたらその分ハジカレル時間というものもあるだろう。

その彼女のお宅で食事をご馳走になった時、私も別の意味でびっくりした！

お茶碗に炊き込みご飯を盛るのに、何回おしゃもじを動かしただろう！

綺麗に、綺麗に、丁寧に、丁寧に、まるで仏様のご飯みたいに綺麗に盛り上がったお茶碗を受け取った時、自分の家事の行動の雑さを思い知った。

私なら、バツと盛り、ざっざっと二・三回小高く整えるだけで終わるだろう。

ある方の洗濯物の干し方を見ていてびっくりしたことがある。

丁寧に丁寧に竿に干し、隅々キチン！と伸ばしたりさすったり叩いたり、一枚のシャツを干すのに何分掛かったことやら。

それに引き換え私の干し方ときたら、「バン！」と一振り、竿に通してびっ！と裾を引っ張っていっちょ上がり！

ちょっと情緒に欠けるかなあ・・・。

でも、私としては気分上々、「あ～～あ！しあわせ！」と深呼吸などしながら満足感の権化と化して風に揺れる洗濯物を眺めているのだ。

着る時に、ちょっとでこぼこした皺の感触がまたうれしかったりして・・・。

あい？やっぱり私って雑？

そんなこんなで、今日も「雑な」時間が流れていく・・・。

久しぶりに友達4人とランチを食べようということに。

初めて入る中華料理店に決める。なかなか綺麗なお店だ。

何食べる？と賑やかにメニューと首っぴきの結果、それぞれの好みの料理を注文をする。

程なくして運ばれてきたあつあつの美味しそうなお料理！

わくわくにここに「いただきます～す！」と箸をつけたとたん、「しょぱいい！何この味付け！」とT女史。

どれどれ・・・と私も一口。

確かに味がしっかり目だが、私にとっては別に・・・という感じ。

一口毎に「あ～しょっからい！」と文句たらたらのT女史は、しまいには「コックに文句言おうかしら」とまで言い始める。

彼女の鋭敏な味覚の為に、その場には気まずい雰囲気は漂う。

それと同じような場面は結構ある。

楽しいパーティの最中、ぱくぱくにここにこ美味しく頂いている横で、「私はコレステロールが高いので、これは食べられないの」とか「私これ嫌い！」とか。

私だったら、その場は皆と同じように頂き、嫌いなものがあつたら（ない！）皆に気付かれないようにそっと端に残し、カロリーやコレステロール系が心配でも美味しく頂き、その後の自宅での食生活で辻褄を合わせる工夫をするなあ・・・。

先述のお店の「味付け」の事でも、我慢出来ない程の場合は別として、「しっかりしたお味なこと！」と楽しみ、薄味の場合は「お上品なお味なこと！」と楽しみ、自分で選んで入ったお店なのだから最後までしっかりと頂いて帰るなあ・・・。

もし我慢できない程だったら、二度と行かなければ良いのだから。

これはもしかして、味音痴の為？

こんな日和見な私だから、お料理が上手くならないのかも知れない・・・。

だって、どんなものでも美味しいと感じるのだもん！ (恥)

今日はスカッと晴れた素敵なお天気！

こんな日は、お洗濯物が無くても無理やりシーツを剥がしてお洗濯したくなる貧乏性。だって、折角のお日様を素通りさせるのが勿体無いのですもの・・・。

そこで今しがた大きなシーツをパン！パン！と引き伸ばして干して来たところ。

あ～～！良い気持ち！

それにしても私って、ケチなのかしら鷹揚なのかしら・・・。

「お日様をのがすな！」とシャカリキになる割には「雨もいいなあ・・・屋根に守られている私って何てしあわせ！」などとそば降る雨を窓から飽きずに眺めていたり・・・。

洋服生地はハギレが大好き！まるでパズルをするように、ああでもない・・・こうでもない・・・と型紙をはめこんで、出来る筈もないような少しの生地から自分の洋服を作り出した時の喜びは例えようも無い満足感。

そんなケチ(?)な私が、「高級一着分」などという生地を、惜しげもなく皆様にダンボール箱で差し上げたり・・・。（「ドレスの小路」で実施）

話は飛ぶが、去年のこと。

6年だった孫が塾通いで良く立ち寄っていたらしい「吉野家」の牛丼を、「ツユダク」だとか何とか「通」ぶって話しているのを聞いて、行ったことがない私も急に行きたくなった。

「テスト100点取得記念」(? 理由は何でもいいのです。我が家的には・・・) ということで、一家で吉野家へ！いざ！

わ～ん、良い匂い！

どれにしようかな・・・と迷っていたら、息子が小さな声で「ココはささっ！と決めるのがオキテ！」

そこで慌てて例の「ツユダク」と卵を追加で注文。

あっという間に出来てきた「吉野屋の牛丼」！わ！これこれ！わくわく。

ショウガはとり放題・・・ですと？。やっほー！

そこで私がやったこと！ そのショウガをワンサとつまんで丼に獲得！

ふと見回すと、他の皆は必要なだけのちょびっとしか取っていない・・・。

そこで私の「欲張り精神」が露呈・・・。(^_^)

そのテンコ盛りのショウガをなるべく早く消費すべく、目を白黒しながら食べた経験は、ほんとに辛いショウガの味でした！

そんなケチMEMEなのに、スーパーのチラシに目を通したことがなく、買いたい時に買いに行くという鷹揚さ。（ま、たかだか二人分だということもあるけど）

私って、ケチなのかしら・・・、鷹揚なのかしら・・・。

「吉野家の牛丼」、早く復帰して欲しいな。

その時は「鷹揚に」ショウガをちょびっとつまんで、すまし顔でいただくぞお〜ん！

今年もあと僅か。

毎年の事ながら、年の瀬が迫ってから市の健康診断に慌てて駆けつける。

もっと早く受けておけばいいものを、後で・後で・と一日伸ばしにしているとこんな時期になってしまう。

病院の待合い室で、壁に掛けてある「小磯良平」のパステル画や油絵などを眺めていたら、先に診察室に入っている方の採血風景がカーテンの隙間からちらりと見えた。

ちょっと髪が薄くなった50前後の働き盛りのおじさんが、注射針を見ないように、出来る限り首を回して目をぎっつとつぶって我慢している様子が可愛かった。

私は絶対、最初から最後までじっと確認しないと気が済まないタチ。

針が何時刺されるか、血管に上手く命中するか、全部リアルタイムで凝視していないと嫌なのだ。

ひっ、いつ刺されるのかな・痛いかな・と見ぬふりでドキドキしている方が不安。

自分に起こる全てのことを知っておきたい性分。

この二派はきっと、癌の告知でも同じ様に二派に分かれるのだと思う。

私は自分の病状を全部知り、調べ上げた上で自分の余命を自分で取り仕切りたい。

主人はどうも他派のようだ。

目をぎっちりつぶって耐えていたあのおじさん派は、人生もふわりと夢多くすごしているのだろうなあ・。

現実を見据えて、痛みも自分のものにしてしまう私のような生き方は、ちょっとリアルで甘さがなく、可愛げが無いかもしれないが、その分「いつ刺されるか」という不安からは逃避できる気がする。

などなど考えながら、待ち時間をすごしていたことだった。

で・。 「白内障のようですね・」 だって！ げっ！

生地を買いに電車で出かける。
今日は秋晴れの素敵な日より。

大好きな、ぶらり一人ショッピングには打ってつけの気候。
思い立って電車に飛び乗る。

日暮里繊維問屋街は私の一番大好きなところ。
一日彷徨っていても退屈しない。

で……。買った！買った！生地やレースを買い捲って帰途につく。

重い袋を3つも網棚に乗せてほっと一息つく頃には、汗びっしょり！

よんこらしよと我が家に着いて、**ふと鏡を見てびっくり。**

午後から思いつきで飛び出したので、お化粧品もそこそこで、しっかり点検しないで出かけたらしく、**眉の片方が描いてなかった？**

はたまた、汗で流れてしまったのか……。

片方の眉が半分しかな〜い！

ありゃりゃん！

ま、終わってしまった事だし、しゃあない！しゃあない……。(--;)

人って、変な事があっても、見て見ぬフリですごしてしまいますよね。

たとえ頭に「ちょんちょこりん」が乗っていようが、背中に落書きがしてあろうが、チャックが開いていようが、ズボンが裂けていようが、鬢がずれていようが、ストッキングが伝染していようが……。

ある日、同級生が新宿で集まろうという事になり、何十年ぶりに会った時のこと。

それぞれ、卒業以来の歴史を身体や服装に滲ませながら「あらあ！」「まあ！」と再会を喜びあって……。

当時「お嬢様」で通っていたT嬢（？）も、その名にタガワズ相変わらずお上品なたたずまい。

白い上等な麻にカッティング刺繍が施された見事なスーツは、卒業後のお幸せさを象徴していた。

と・・・。

あれま・・・。

お出掛け時には、何十年振りの思いも重なって、丹念に入念にお化粧を整えていらしたであろう彼女の鼻の脇に・・・大きな「鼻○○」が・・・。

ほんと、お気の毒だけど教えて差し上げられなかった・・・。

今も美しく華やかに活動していらっしゃる彼女のお噂を耳にするたび、どうしてもその瞬間の事が頭をよぎる。

私って、ツレナイ人かも・・・。

いや、人間ってそんなものですよね・・・。(…;)

教えて上げなくてごめん！（遅いって！）

プレイバック！！

中学時代の親友のご不幸を伝える手紙が届いた。
ご長女さまからだった。



透明感がある美しいお姿もさることながら、根っからの「お譲さま」な感じの彼女・・・

。中学時代、ご招待いただき、大きなお雛祭りの飾りの前でお母様からおもてなしを頂いた記憶が残る。

卒業後も長年続く同級会では時々お目にかかっていたが、欠席者に送られてきたここ数年前のお写真を拝見して、余りのお変わりようにびっくりした記憶がある。

その黒々と美しい髪が見事に真っ白になっていて、一瞬「どなたかしら・・・？」と頭を捻る程に変貌していらした彼女。

その後もご無沙汰が続き、お会いする機会が無かったここ数年。

私が新潟で個展を開いた折、遠方より友人とお出かけ下さって、オフと一緒に食事をしたり楽しいおしゃべりをした時、「主人が体調を悪くしていて、自分もいろいろあって・・・」などとおっしゃっていたことを思い出す。

その後間もなくご主人様の訃報を知り、さぞお気落としのことと案じていた頃の「白髪事件」だったように思う。

お美しくて、まるで[フリージア](#)の花のようだったお姿が目浮かぶ。

合掌

★

ところで、その訃報を「個展で一緒にいらした」yさんに電話した。

彼女もびっくり！して聞いていらした。

話があちこち飛んだりしていろいろ話した後、「この訃報の件を共通の友人にもお伝えしてくださいね・・・」と言ったら、暫く無言・・・。

ん？ なに・・・？ どうした・・・？

・・・無言の後に大きな声でおっしゃった！

【プレイバック！！！！】　そして・・・

【一番最初の話は何だったっけ・・・？】

自称（とはいえ、薬を処方されて服用している）【[認知症](#)】とやらなので、気をつけてはいるつもりだったけれど、【プレイバック！】には恐れ入った！

大丈夫！大丈夫！　瞬時に「横文字」が口から出てくるのだから、心配ないわ！！

(*´艸`)

びっくりしたり、安心したり、心配したり・・・の友人とのお電話だった。

【プレイバック！！！！】　かぁ・・・。　(≧▽≦)